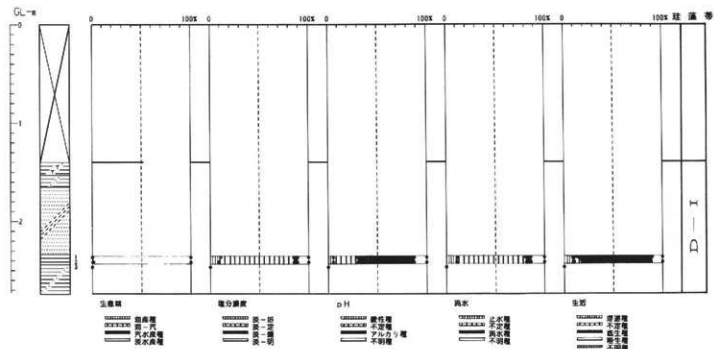


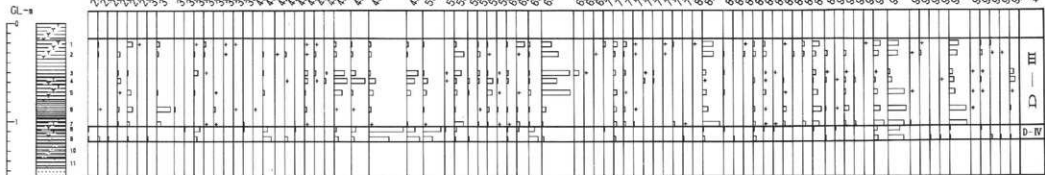
—10x × 0.5x

第129図 3区北盤(2)の柱藻ダイアグラム



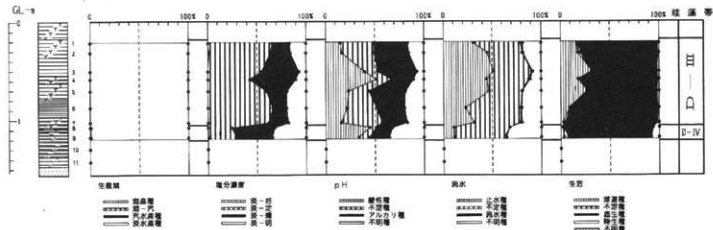
第130図 3区北盤(2)の柱藻総合ダイアグラム

西大井遺跡5-2区南壁



第131図 5-2区南壁の珪藻ダイアグラム

西大井遺跡5-2区南壁



第132図 5-2区南壁の珪藻総合ダイアグラム

大阪府西大井遺跡における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたのちも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山 1987)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山 1984)。

西大井遺跡の発掘調査では、複数の層準から畦畔が検出され、それぞれ当時の水田跡と見られていた。そこで、これらの層準を中心に分析を行い、イネをはじめとするイネ科栽培植物の検討および遺跡周辺の古植生・古環境の推定を試みた。

2. 試料

調査地点は、7区北壁の東地点と中央地点である。試料は、東地点では旧耕土 (試料1) から地山層 (試料26) までの層準について、中央地点では2層 (試料27) から3層 (試料30) までの層準について、計30点が採取された。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105℃・24時間)、仮比重測定
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約40 μm 、約0.02g)
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42kHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20 μm 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成

7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-3} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキの値を用いた。その値は2.94（種実重は1.03）、8.40、6.31、1.24である。タケ亜科については数種の平均値を用いた。ネザサ節の値は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表および第133図、第134図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、キビ族（ヒエ属など）、ヨシ属、ウシクサ族（ススキ属やチガヤ属など）、シバ属、キビ族型、ウシクサ族型（大型）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、マダケ属型（マダケ属、ホウライチク属）、タケ亜科（未分類等）

穎の表皮細胞由来：イネ、オオムギ族

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科（バリバリノキ?）、その他

5. 考察

（1）稲作跡の検証と探査

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層に植物珪酸体の密度のピークが認められれば、上層か

ら後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて稲作の可能性について検討を行った。

1) 7区北壁東地点 (第133図)

明治18年の洪水直下層 (試料1) から地山層 (試料26) までの各層準について分析を行った。その結果、洪水直下層 (試料1)、1層 (試料2～6)、3層 (試料9～11)、4層 (試料12～14)、4 b層 (試料15、16)、5・6層 (試料18)、7層 (試料19、20)、8層 (試料21)、9層 (試料22) からイネが検出された。

このうち、1層 (近世)、7層、8層 (古墳時代) では密度が5,000個/g以上と高い値であり、それぞれ明瞭なピークが認められた。また、明治18年の洪水直下層、3層 (12世紀後半以降、畦畔検出)、5・6層 (9・10世紀以降、畦畔検出) でも密度が4,000個/g前後と比較的高い値であり、それぞれ明瞭なピークが認められた。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の層では、密度が1,000～3,000個/g程度と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、1) 稲作が行われていた期間が短かったこと、2) 洪水などによって耕作土が流出したこと、3) 土層の堆積速度が速かったこと、4) 採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられるが、上層や他所からの混入の可能性も考えられることから、地点数や試料数を増やすなどさらに詳しい調査が必要と考えられる。

2) 7区北壁中央地点 (第134図)

2層上部 (試料27) から3層上部 (試料30) までの各層準について分析を行った。その結果、2層上部 (試料27) と3層上部 (試料30) からイネが検出された。密度は前者で800個/g、後者で2,300個/gと比較的低い値であるが、それぞれ直上を砂層で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

以上のように、畦畔が検出された1層 (近世) や3層 (12世紀後半以降)、5・6層 (9・10世紀以降) ではイネが多量に検出され、これらの層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、明治18年の洪水直下層、7層、8層 (古墳時代) では稲作が行われていた可能性が高いと判断され、4層～4 b層 (10～12世紀)、9層 (弥生時代後

期～古墳時代前期)などでも稲作の可能性が認められた。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族(ムギ類が含まれる)やキビ族(ヒエやアワ、キビなどが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属(シコクビエが含まれる)、モロコシ属、トウモロコシ属などがある。このうち、本遺跡の試料からはオオムギ族とキビ族が検出された。

オオムギ族(穎の表皮細胞)は、明治18年の洪水直下層(試料1)から検出された。密度は800個/gと低い値である。オオムギ族については標本の検討が十分とは言えないが、ここで検出されたのはムギ類(コムギやオオムギなど)と見られる形態のもの(杉山・石井 1989)である。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

キビ族は、3層(試料10)から検出された。キビ族にはヒエやアワ、キビなどの栽培種が含まれるが、現時点ではこれらの栽培種とイヌビエやエノコログサなどの野・雑草を完全に識別するには至っていない(杉山ほか 1988)。また、密度も700個/gと低い値であることから、同層でヒエなどのキビ族植物が栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草に由来するものである可能性も否定できない。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(3) 植物珪酸体分析からみた植生・環境

最下位の地山層では、ネザサ節型や棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族型やクマザサ属型なども見られた。その後、9層直下にかけては各分類群とも減少傾向を示しているが、9層(弥生時代後期～古墳時代前期)ではウシクサ族型や棒状珪酸体が再び増加し、前述のイネをはじめヨシ属やウシクサ族(ススキ属など)が出現している。8層(古墳時代)から5・6層(9・10世紀以降)にかけてもおおむね同様の結果であるが、ヨシ属は見られなくなっている。

4b層より上位では、イネ以外にもネザサ節型やクマザサ属型、ウシクサ族型などが検出されたが、いずれも少量である。明治18年の洪水直下層ではマダケ属型が出現している。

第6表 大阪府、西大井遺跡の植物種分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群 / 試料	北 畿 東 地 点																										北 畿 中 央								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
イネ科																																			
イネ	38	64	69	44	46	45			35	37	29	15	16	8	23	7		44	55	46	63	35									8				23
イネ鞘殻(穎の表皮細胞)																																			
オオムギ殻(穎の表皮細胞)	8																																		
キビ藪(ヒエ属など)											7																								
ヨシ属					7																					14	8								
ウシタサ属(ススキ属など)	8	7			7				7	7											7				22		46	14	28		7				
シバ属											7																								
キビ藪型																																			
ウシタサ属型	23	57	23	15	26	22			21	15	7	15	8	8											7	153	131	270	267	370	39	59	97	102	
ウシタサ属型(大葉)																																			
タゲ草科																																			
ネギサ属型	46	36	53	15	7	15			21		7	15	32	55	15	7		209	255	339	429	223	157	290	606	871									
タマザサ属型												15		7	8	8	8										44	28	15	21	14	8	30	37	29
メダケ属型																																			
マダケ属型	15																																		
未分類等	38	121	76	59	20	30			35	22	29	89	55	39																					
その他のイネ科																																			
表皮毛胞類	8	7	23	44	20	15			21	7	22	15	16													36	21	15	98	28		7	15	29	
線状細胞体	54	213	237	354	165	60	15	15	99	119	95	104	63	55	23	22		705	894	1096	1300	1222	149	468	853	929									
葉部細胞																																			
葉部筋等	46	505	465	502	377	300	15	8	300	364	351	186	158	47	15	44		749	677	767	822	838	267	624	786	776									
樹木起源																																			
ブナ科(シイ属)																																			
クスノキ科(バリバノキ?)																																			
その他																																			
(前掲資料)																																			
植物種体総数	283	1031	961	1033	675	487	30	23	607	595	571	454	355	218	91	140		2305	2346	3096	3443	3094	745	1716	2747	3074									

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²-ea)

イネ	1.12	1.88	2.02	1.30	1.36	1.32			1.04	1.09	0.96	0.44	0.46	0.23	0.67	0.22		1.28	1.62	1.36	1.86	1.03										0.23	0.67				
(イネ類)	0.39	0.66	0.71	0.46	0.48	0.46			0.36	0.38	0.30	0.15	0.16	0.08	0.23	0.08		0.45	0.57	0.48	0.65	0.36										0.08	0.23				
キビ藪(ヒエ属など)																																					
ヨシ属						0.42																															
ウシタサ属(ススキ属など)	0.09	0.09				0.08			0.09	0.09								0.27		0.57	0.17	0.35								0.09			0.10				
ネギサ属型	0.22	0.17	0.26	0.07	0.03	0.07			0.10		0.04	0.07	0.15	0.26	0.07	0.04		1.29	1.22	1.63	2.06	1.07	0.75	1.39	2.91	4.18									0.04	0.04	0.14
タマザサ属型																		0.33	0.21	0.12	0.16	0.10	0.06	0.22	0.28	0.22											0.11

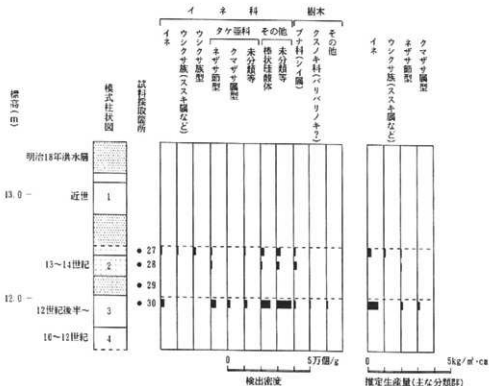
※仮比重を1.0と仮定して算出。

なお、3層～4層などではイネ科以外にもブナ科（シイ属）やクスノキ科などの樹木（照葉樹）起源の植物珪酸体も検出された。樹木についてはイネ科と比較して一般に植物珪酸体の生産量がかなり低いことから、植物珪酸体分析の結果から古植生を復原する際には、他の分類群よりも過大に評価する必要がある。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、最下位の地山層ではネザサ節型が圧倒的に卓越しているが、その後はしだいに減少し、9層より上位ではイネが優勢となっている。なお、9層およびその下層では、一時的にヨシ属が出現・増加している。4 b層より上位ではおおむねイネが卓越しており、その他の分類群は少量である。

以上の結果から、西大井遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

最下位の地山層およびその上層の堆積当時は、ネザサ節などのタケ亜科を主体としたイネ科植生が継続されていたものと推定される。ネザサ節は乾地を好むことから、当時は比較的乾いた土壌条件下で推移したものと推定される。その後、9層（弥生時代後期～古墳時



第134図 大阪府、西大井遺跡 7区北壁中央地点の植物珪酸体分析結果

よる水田址の探査一、考古学と自然科学, 17: p.73-85.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追求のための基礎資料として—、考古学と自然科学, 20: p.81-92.

杉山真二・石井克己(1989)群馬県子持村、F P直下から検出された灰化物の植物珪酸体(プラント・オパール)分析、日本第四紀学会要旨集, 19: p.94-95.

編者註

試料採取時に層序に混乱が生じているので、ここで訂正しておく。4層とした層は、正しくは3層である。3層は層厚が厚く、(上)と(下)に分離したところもある。したがって、試料9～試料14が3層の試料となる。また、4b層とした層は、正しくは4層である。試料15・16が4層の試料である。

なお、本書に掲載した分析報告の、本文・図・表等では、これらの層序の訂正に伴う変更はしていないので、注意されたい。

(大野)



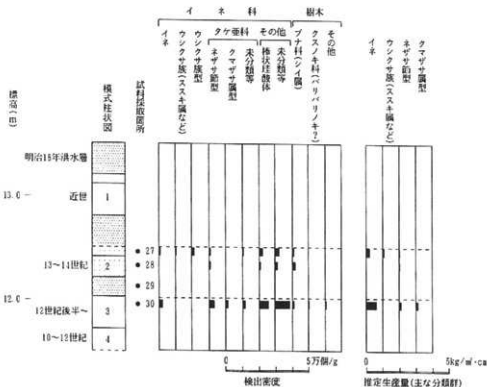
第135図 プラント・オパール分析試料採取状況

なお、3層～4層などではイネ科以外にもブナ科（シイ属）やクスノキ科などの樹木（照葉樹）起源の植物珪酸体も検出された。樹木についてはイネ科と比較して一般に植物珪酸体の生産量がかなり低いことから、植物珪酸体分析の結果から占植生を復原する際には、他の分類群よりも過大に評価する必要がある。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、最下位の地山層ではネザサ節型が圧倒的に卓越しているが、その後はしだいに減少し、9層より上位ではイネが優勢となっている。なお、9層およびその下層では、一時的にヨシ属が出現・増加している。4層より上位ではおおむねイネが卓越しており、その他の分類群は少量である。

以上の結果から、西大井遺跡における堆積当時の植生と環境について推定すると次のようである。

最下位の地山層およびその上層の堆積当時は、ネザサ節などのタケ亜科を主体としたイネ科植生が継続されていたものと推定される。ネザサ節は乾地を好むことから、当時は比較的乾いた土壌条件で推移したものと推定される。その後、9層（弥生時代後期～古墳時



第134図 大阪府、西大井遺跡7区北壁中央地点の植物珪酸体分析結果

代前期)の時期には一時的にヨシ属が生育するような比較的湿潤な土壤条件になったものと考えられ、そこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、稲作の開始以降もネザサ節が比較的多く見られることから、当時の水田は湿田ではなく乾田であった可能性が考えられる。

その後、稲作は洪水によってしばしば中断されたと考えられるが、それぞれ比較的早い時期に再開され、明治18年の洪水直下層までおおむね継続して行われたものと推定される。4b層より上位ではイネ科の野・雑草がほとんど見られないことから、当時の稲作は雑草の管理などが行き届いた集約的なものであったと推定される。なお、遺跡周辺ではカシ類やクスノキなどの樹木(照葉樹)が見られたものと推定される。

タケ亜科植物のうち、マダケ属にはマダケやモウソウチクなど有用なものが多く、建築材や生活用具、食用などとしての利用価値が高いが、これらの植物が現れるのは比較的最近のことと考えられる。

6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、畦畔が検出された1層(近世)や3層(12世紀後半以降)、5・6層(9・10世紀以降)ではイネが多量に検出され、これらの層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。

本遺跡では8層(古墳時代)もしくは9層(弥生時代後期~古墳時代前期)の時期に、ヨシ属などの生育する湿地的なところを利用して水田稲作が開始されたものと考えられ、その後も洪水層の時期を除いておおむね継続して行われていたものと推定される。

参考文献

- 杉山真二(1987)遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究。第2号:p.27-37。
- 杉山真二(1987)タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告。第31号:p.70-83。
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)一数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一。考古学と自然科学。9:p.15-29。
- 藤原宏志(1979)プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)一福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(*O. sativa* L.)生産総量の推定一。考古学と自然科学。12:p.29-41。
- 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)一プラント・オパール分析に

よる水田址の探査一、考古学と自然科学, 17: p.73-85.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞炭酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追求のための基礎資料として—, 考古学と自然科学, 20: p.81-92.

杉山真二・石井克己(1989)群馬県子持村、F P直下から検出された灰化物の植物炭酸体(プラント・オパール)分析, 日本第四紀学会要旨集, 19: p.94-95.

編者註

試料採取時に層序に混乱が生じているので、ここで訂正しておく。4層とした層は、正しくは3層である。3層は層厚が厚く、(上)と(下)に分離したところもある。したがって、試料9～試料14が3層の試料となる。また、4b層とした層は、正しくは4層である。試料15・16が4層の試料である。

なお、本書に掲載した分析報告の、本文・図・表等では、これらの層序の訂正に伴う変更はしていないので、注意されたい。

(大野)

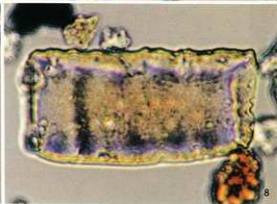
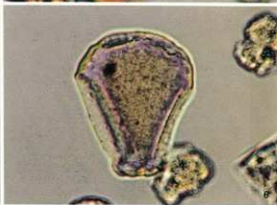
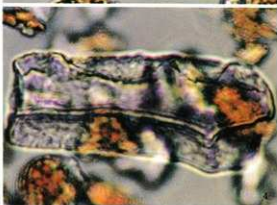
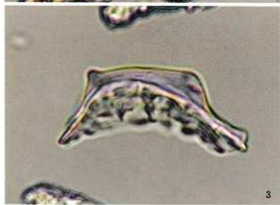


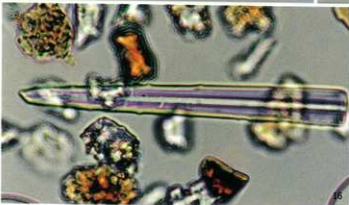
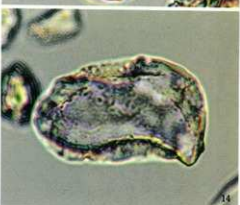
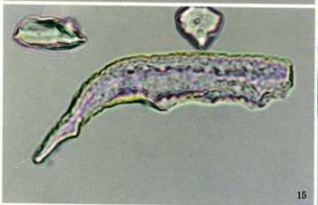
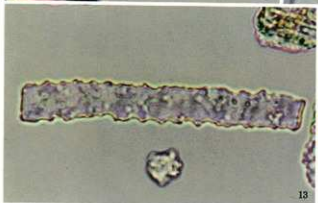
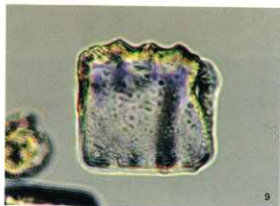
第135図 プラント・オパール分析試料採取状況

植物珪酸体の顕微鏡写真

(倍率はすべて約480倍)

No.	分類群	試料名
1	イネ	15
2	イネ	9
3	イネの糊殻(穎の表皮細胞)	16
4	キビ族(ヒエ属など)	10
5	ヨシ属	22
6	ウシクサ族(ススキ属など)	22
7	シバ属	3
8	キビ族型	20
9	ネザサ節型	22
10	ネザサ節型	18
11	クマザサ属型	26
12	メダケ節型	19
13	棒状珪酸体	19
14	ブナ科(シイ属)	2
15	クスノキ科(バリバリノキ?)	16
16	海綿骨針	11





西大井遺跡における考古地磁気

株式会社 夏原技研

大阪府藤井寺市西大井遺跡で発掘調査された遺構の焼土から、考古地磁気年代推定用の試料を採取した。その熱残留磁気測定結果について報告致します。

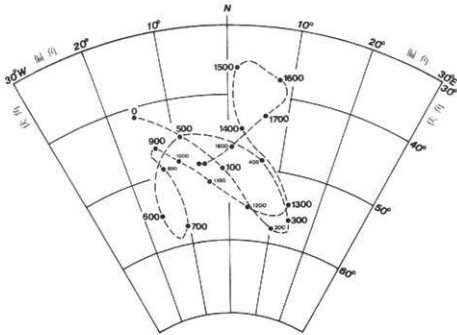
I 考古地磁気年代推定の基礎

磁石は北を指す。地球には地磁気が存在するためである。地磁気はベクトル量であり、ある地点における地磁気を記述するために、方向（偏角と伏角）と大きさ（全磁力）が必要である。一般に、磁気コンパスの磁針が指す北（磁北）は、真北（地図の経線方向）からずれている。この磁北と真北の間の角度が偏角である。磁針をその重心で支え、磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面の下になるように傾く。この傾斜角が伏角である。大阪府の現在の偏角は約 6.7° Wで、伏角は約 48° である。また、全磁力は、約0.45エルステッドである。これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は観測する地点によって異なる値になる。全世界の地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気分布は、地球の中心に棒磁石を置いたときにできる磁場の分布に近似される。この棒磁石の軸方向は、自転軸から約 11.5° 傾いている。この磁軸と地表との交点が地磁気北（南）極である。

地磁気は絶えず変動し、時代と共にその地磁気北極の位置を変える。従って、ある地点で観測される偏角・伏角の値も時代と共に変化する。方向だけではなく、大きさ（全磁力）も変化する。この変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

歴史時代の地磁気永年変化は、岩石や焼土の残留磁化の測定を基礎とする考古地磁気測定によって明らかにすることができる。どんな物質でも、ある（強）磁場中に置かれると磁化を帯び、そして磁場が取り除かれると、普通の物質からは磁化が消える。しかし、強磁性物質（磁石になれる物質）では、外部磁場が消えても磁化が残る。これが残留磁化である。残留磁化の強さや安定性は、磁化を獲得する時の条件によって異なる。残留磁化はその獲得方法の違いによっていろいろな名前と呼ばれる。考古地磁気学で地磁気の化石として最もよく利用するのが熱残留磁化である。岩石には少量の強磁性粒子（赤鉄鉱や磁鉄鉱などの鉄の酸化物）が含まれている。火成岩では、高温のマグマの状態から冷えて岩石

になる過程で、強磁性粒子がその時の地磁気によって磁化を帯び、冷えてからはその残留磁化を保持し続ける。これが熱残留磁化である。土も焼かれると、冷却の過程で同様の熱残留磁化を獲得する。熱残留磁化の性質を簡単にまとめると、次のようになる。岩石の誕生時または土が焼かれた時の地磁気方向を記録していて、その大きさは地磁気大きさに比例し、何億年も長い期間でも変質しない。これらの性質によって、地磁気の化石として利用が可能なのである。Hirooka(1971)により遺跡の焼土の熱残留磁化測定から求められた過去2,000年間の西南日本における偏角-伏角の変化を第136図に示す。偏角は $20^{\circ}W$ から $15^{\circ}E$ 、伏角は 35° から 60° の間で変化している。第136図のような地磁気永年変化の標準曲線が得られると、逆に、年代の確かでない遺跡の焼土の残留磁化を測定し、永年変化曲線と比較することで、その年代の推定を行うことができる。これが考古地磁気による年代推定である。この方法は、 ^{14}C 法やフィッション・トラック法のような放射(絶対)年代測定法とは異なり、それだけで独立して年代を決定できない。普通、偏角と伏角の組み合わせで永年変化曲線から2つか3つの候補年代が出てくる。そのうちの何れを採用するかは、考古学的推定に頼ることになる。



第136図 広岡(1977)により西南日本の考古遺跡焼土の測定から求められた過去2000年間の地磁気永年変化曲線(偏角-伏角図)

II 試料の採取と測定

II-1 試料採取方法

遺構の焼土から次の様な手順で試料を採取する。

1. 焼土面に先の尖ったハンマーで、1辺が数cm程度の立方体試料を取り出すための溝を、試料が床面から外れないように、手で押さえながら丁寧に掘る。
2. 溝を掘り終わった後、掘り込み作業中に試料表面についた砂や石を刷毛で丹念に取り除く。
3. 薄く溶いた石膏をビニール袋に入れ、試料全体にかけて表面を補強する。
4. 乾燥後、やや固めの石膏を試料上面にかけ、1辺5cmの正方形のアルミ板をすばやく押しつける。石膏が固まるのを待ち、アルミ板を外す。
5. アルミ板を用いて作った平面の最大傾斜の方位と傾斜角を、考古地磁気用磁気コンパス(Hirooka 1971)で測定し、平面上に方位測定位置を示すマーク(平面を定義する3つの点)と試料番号を記入する。
6. ハンマーで試料を掘り起こし、試料の底面を石膏で補強し、新聞紙等に包み持ち帰る。

II-2 試料整形方法

遺構で採取した試料はそのままでは測定できないので、試料整形を以下のように行う。

1. 試料を1辺3.5cmの立方体に切断するために、プラスチックの型板(34mm×34mmの正方形)を利用し枠取りの線を引く。この時、型板のマークと試料表面の方位測定位置を示すマーク(3点)を合わせる。
2. 試料温度が上がるのを防ぐために冷却水をかけながら、ダイヤモンド・カッターで1面ずつ切断する。切断面が崩れないように石膏で補強し、次の面の切断を行う前に試料を充分乾燥させる。この作業を5回繰り返すと立方体試料が得られる。
3. 試料表面についた余分な石膏をカッターで削り落とす。

II-3 残留磁化測定

残留磁化は、当社製のリング・コア型スピナー磁力計で測定した。この磁力計は宇宙空間の磁場計測用に開発されたリング・コア型フラックスゲートセンサーを利用して製作している。1~10⁻⁶emuの残留磁化が測定できる。立方体試料を専用ホルダーに装着して各面ごとに磁化を測定して、合計6回の測定を行い北向きの成分、東向きの成分、鉛直の成分を求める。

II-4 データ整理

測定結果として得られるデータは、試料に設定した座標に対するものなので、試料を遺構のもとに位置に戻した時の真北を基準方向とする座標に対するものに変換しなければならない。そのためには、試料が残留磁気を獲得した時の位置（地理的緯度、経度）、および方位（試料の一つの基準面の走向、傾斜）が必要である。位置については、2万5千分の1程度の縮尺の地形図から、その遺構の緯度、経度を読み取ればいい。方位は、試料採取の作業で磁気コンパスを使って測定している。磁気コンパスの方位は、磁北に対するものなので、真北に対する方位に直すために、試料採取地点の現在の偏角分を補正する必要がある。現在の地磁気偏角は、国土地理院の偏角分布の実験式から求めることができる。

測定にはいろいろな要因での誤差がつきものであるため、一つの遺構から8～10個程度の試料を採取している。これらの試料の個々の測定で得られた偏角 (D_i)、伏角 (I_i) から平均値 (D_m , I_m) を求める。ここで用いる統計学的方法はFisherによって確立されたものである。各試料の測定値を、方向 (D_i , I_i) の単位ベクトルとして取り扱う。

まず、 n 組の (D_i , I_i) より

$$N = \sum \cos I_i \cdot \cos D_i \quad (\text{北向きの成分})$$

$$E = \sum \cos I_i \cdot \sin D_i \quad (\text{東向きの成分})$$

$$Z = \sum \sin I_i \quad (\text{鉛直の成分}) \text{ を求めると、合ベクトルの大きさ } R, \text{ および}$$

D_m , I_m は、

$$R = (Z^2 + N^2 + E^2)^{1/2}$$

$$D_m = \tan^{-1} E/N$$

$$I_m = \sin^{-1} Z/R \quad \text{で与えられる。}$$

このとき、信頼度係数 k は、

$k = (n-1) / (n-R)$ となる。 k が大きいほど、方向の集中はよい。よく焼けた窯跡では数百の値になる。

誤差角 α_m は、危険率5%として

$\alpha_m = \cos^{-1} [1 - (n-R) \{ (20)^{1/(n-1)} - 1 \} / R]$ で与えられる。 α_m が小さいほど、方向の集中はよい。よく焼けた窯跡では数度以内になる。

これより D_m , I_m のそれぞれの誤差の幅として、

$$\delta D = \alpha_m / \cos I_m \quad (\text{偏角誤差})$$

$$\delta I = \alpha_{95} \quad (\text{伏角誤差})$$

が求められる。

以上のようにして得られた計算結果を、一つの遺構を代表する考古地磁気データとしている。

なお、考古地磁気年代推定の原理や測定方法については、中島・夏原(1981)に詳しく解説されている。

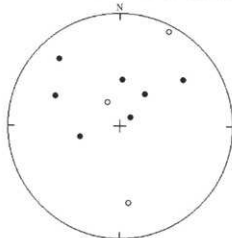
III 残留磁化測定結果

発掘調査された西大井遺跡の焼土壌より10個の考古地磁気用の定方位試料を採取した。その熱残留磁気を測定した。熱残留磁気測定結果を第7表、第137図にまとめた。現在の地磁気偏角の補正は、国土地理院の1990年の磁気偏角図から読み取った6.7°Wを使用した。

第137図から明らかなように磁化方向は大きくバラツいた結果となった。この測定結果での年代推定を行うことは不可能であった。北を向いた試料や南を向いた試料が混在して

第7表 残留磁気測定結果

試料 No.	偏角 Di (°E)	伏角 Ii (°)	強度 ×10 ⁻³ emu
OF-01	-42.5	19.8	14.3
OF-02	53.9	30.8	6.42
OF-03	3.2	55.9	33.2
OF-04	27.4	-5.9	5.13
OF-05	-105.0	59.4	4.96
OF-06	-27.9	-70.5	5.84
OF-07	50.0	79.6	3.76
OF-08	-65.2	36.4	8.43
OF-09	38.3	59.9	2.61
OF-10	173.3	-31.6	3.37



第137図 各試料の残留磁化方向の等面積投影図 (黒丸は下向きの成分、白丸は上向きの成分)

平均磁化強度 8.80×10^{-3} emu

おり大きな攪乱を受けたと思われる。平均磁化強度は 8.80×10^{-3} emuであり、焼土塊としては通常の試料と比べて非常に高温の火を受けたことを示す。

今回の測定結果の解釈の際や今後の測定試料の採集する際に参考となる点をあげます。考古地磁気による年代推定の最も基本的な原理は、測定により土が焼かれた時の時代の地磁気の北の方向を復元して、すでに明らかになっている過去の地磁気の方角と比較することである。従って、焼土が冷却後に動いていないことが非常に重要である。これは、移動していないのみならず同じ位置でも回転をしてはならない。回転に対しては考古地磁気測定は大変弱く、数度の回転が致命的な影響を与える。窯跡などでは大きな回転等を受けることは少なく、炉跡などのあまり高温になっていない焼土は機械的強度も弱く、移動、回転が大きな問題となる。特に炉などからかき出した場合の焼土の測定の場合には無意味な測定しかできないことになる。そのような場合には焼土と炭が混在したり、炭化物の上に焼土が重なっていることが多いので試料採集時に注意が必要である。

今回の場合も大量の炭と焼土が混ざっており前述の通り高温で焼かれた跡に攪乱を受けた焼土を採集したことになる。

V 引用文献

Hirooka, K., 1971: Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan. Mem. Fac. Sci., Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral, 38, 167-207.

広岡公夫, 1977: 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向, 第四紀研究, 15, 200-203.

中島正志・夏原信義, 1980: 考古地磁気年代推定法. 考古学ライブラリー9. ニュー・サイエンス社.

Shibuya, H., 1980: Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大基礎工修論, 54p.

西大井遺跡出土の石器の石種

奥田 尚

1. はじめに

遺跡から出土した石器に使用されている石材の石種を肉眼で観察した。石種は流紋岩A・B、輝石安山岩A・B・C、橄欖石安山岩、砂岩A・B、玄武岩質凝灰岩質片岩A・B・C・D、泥質片岩、片麻状黒雲母花崗岩、紅柱石ホルンフェルスであり、鉱物種は滑石である。これらの石種・鉱物種の特徴と、推定される採石地について述べる。

2. 石種・鉱物種の特徴

石器に使用されている石材の石種・鉱物種の特徴について述べる。

流紋岩A 砥石(276, 石-7)、石包丁(391)は色は白色で、発泡孔が散在する。孔径は0.5~1mmである。斑晶鉱物は石英と長石である。石英は無色透明、粒径が0.1~0.3mm、量ごく僅かである。複六角錐の自形をなすものが多い。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.1~0.3mm、量が中である。石基は灰白色、ガラス質である。

流紋岩B 砥石(登録番号1313)は色は黄灰白色で、球状をなす発泡孔が多い。孔径が0.5~2mmである。斑晶鉱物は石英と長石である。石英は無色透明、粒径が0.1~0.5mm、量が僅かである。複六角錐の自形をなすものが多い。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.1~0.7mm、量が中である。石基は淡黄土色、ガラス質である。

輝石安山岩A 自然石(登録番号2445)は色は灰色で、球状をなす発泡孔が多い。孔径が0.5~3mmである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、粒径が0.3~1.5mm、量が多い。輝石は黒色、粒径が0.3~1mm、量ごく僅かである。石基は灰色、ガラス質である。

輝石安山岩B 割り石(登録番号1909)は色は暗灰色で、流理がある。石英の捕獲晶がごく僅かにみられる。粒径が5mmに及ぶ。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、粒径が0.1~0.3mm、量が多い。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.1~0.3mm、量が僅かである。石基は灰色、ガラス質で、黒色の輝石粒が多い。

輝石安山岩C 割り石(第10遺構面礫群)は色は暗灰色で、板状節理が顕著である。発泡孔は孔径が0.5~2mm、量が多い。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色透明、

粒径が0.2~1mm、短柱状で、量が僅かである。長石の中に輝石が含まれることがある。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.2~0.3mm、量がごくごく僅かである。石基は灰色、ガラス質で、微粒の黒色の輝石が多く含まれる。

橄欖石安山岩 砥石(137)は色は暗灰色、板状節理が顕著である。斑晶鉱物は長石、輝石、橄欖石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.3~0.7mm、量が多い。輝石は青銅色透明、柱状で、粒径が0.5~1.5mm、量が僅かである。橄欖石は茶褐色透明、粒状で、粒径が0.5~0.7mm、量がごく僅かである。石基は灰色で、ガラス質である。

砂岩A 切目石錘(431)は色は暗灰色で、細粒である。

砂岩B 叩石(444)は色は暗灰色で、礫形が円、花崗岩質砂岩である。表面が赤茶色になっており、部分的に黒色に焦げているところがある。構成砂粒は花崗岩、石英、長石、黒雲母、角閃石である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が0.5~0.7mm、量が僅かである。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.3~0.5mm、量が多い。長石は灰白色透明、粒形が角、粒径が0.3~0.5mm、量が中である。黒雲母は黒色板状、粒径が0.3~0.5mm、量がごくごく僅かである。角閃石は黒色、粒状で、粒径が0.3mm、量がごくごく僅かである。

玄武岩質凝灰岩質片岩A 石包丁(434)は色は淡灰緑色で、弱い片理がある。斑晶鉱物は長石、輝石、橄欖石、絹雲母である。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.3~0.5mm、量が中である。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.2~0.4mm、量が僅かである。橄欖石は淡茶灰色、粒状で、粒径が0.3~0.7mm、量が僅かである。絹雲母は無色透明、板状で、粒径が0.2mm以下であり、量が多い。基質は淡灰緑色、ガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩B 石包丁(424)は色は灰緑色で、弱い片理がある。斑晶鉱物は長石、輝石である。長石は灰白色透明、短柱状で、粒径が0.1~0.3mm、量が多い。輝石は茶褐色、柱状で、粒径が0.2~0.4mm、量が僅かである。基質は淡茶緑色、ガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩C 石包丁(392)は色は暗灰色で、弱い片理がある。細かい斑晶鉱物の長石、輝石がみられる。長石は灰白色透明、粒状で、粒径が0.1mm、量が多い。輝石は黒色・褐色透明、短柱状で、粒径が0.1mm、量が中である。基質は暗灰色、ガラス質である。

玄武岩質凝灰岩質片岩D 石包丁(443)は色は灰緑色で、弱い片理がある。球状をなす2次成長した長石がみられる点紋片岩である。斑晶鉱物は長石、輝石である。長石は灰白色透明で、短柱状と球状のものがある。短柱状の長石は粒径が0.3~1mm、量が僅か

である。球状の長石は粒径が0.1mm、量が非常に多い。輝石は黒色透明、粒径が0.3~0.7mm、量がごく僅かである。基質は淡灰緑色、ガラス質である。

泥質片岩 石包丁(138)は色は暗灰色で、片理が顕著である。絹雲母が非常に多くみられる。

片麻状黒雲母花崗岩 石斧?(139)は色は暗灰色で、顕著な片麻状を示す。石英、長石、黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明、粒径が0.1mm、量が多い。長石は無色透明、粒径が0.1mm、量が多い。黒雲母は金色、黒色で、粒径が0.1mm、量が多い。

紅柱石ホルンフェルス 砥石(登録番号1114)は色は灰色で、顕著なスレート劈開がある。変成鉱物の空晶石が散在する。空晶石は灰白色透明で、球状をなし、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。基質は灰色、ややガラス質である。

滑石 勾玉(326)は色は淡茶色で、絹糸状の光沢がある。

3. 石材の採石地

当遺跡を中心として岩石の分布をみれば、東方を流れている石川では砂岩、泥岩、チャート、花崗岩、閃緑岩の亜角~亜円礫がみられ、大和川では花崗岩、安山岩、チャート等の亜角~円礫がみられる。また、東方の二上山付近には流紋岩、安山岩、玄武岩等の火山岩が分布する。河川礫や岩石分布をもとにして石器の石材の採取地を推定する。

流紋岩は斑晶が細かく、石英が少なく、長石が多く、石基がガラス質であることから、二上山麓岳や畝傍山、耳成山に分布する流紋岩の岩相の一部に酷似する。太子町の飛鳥川にも礫としてみられる。また、弥生時代前期に唐古遺跡に多くみられる石包丁の石材とも同質であり、四條畷市雁屋遺跡からも同質の石包丁が出土している。

輝石安山岩Bは斑晶が細かく、石英の捕獲品が含まれ、石基に微粒の輝石が含まれることから亀の瀬付近に分布するドロコロ火山岩の岩相の一部に酷似する。輝石安山岩Cは長石の核に輝石がみられ、比較的斑晶が粗く、発泡孔がみられることなどから、明神山付近に分布する明神山火山岩の可能性がある。また、輝石安山岩Aも明神山火山岩の可能性がある。橄欖石安山岩は橄欖石の斑晶が比較的小さく、輝石が目立つことから芝山火山岩の橄欖石安山岩の岩相の一部に酷似する。輝石安山岩A、橄欖石安山岩は角のとれた川原石様であることから、大和川の川原石と推定される。

砂岩Aは採石地を限定できないが、砂岩Bは花崗岩質砂岩であり、角閃石粒も含まれることから和泉山脈に分布する和泉層群の砂岩の一部に酷似する。このような岩相の礫は石

川や泉南の海岸にもみられる。円礫であることから礫形を考慮して近くでは石川の礫と推定される。

片岩は玄武岩質凝灰岩、泥質片岩であることから紀ノ川流域や吉野川、備田川流域に分布する片岩の一部に酷似する。玄武岩質凝灰岩質片岩Dは点紋がみられることから紀ノ川流域であれば大和上市から和歌山にいたる範囲に分布する岩石である。片岩の採石地は距離的に近い紀ノ川が推定される。

片麻状黒雲母花崗岩と同質の礫は大和川の礫にもみられる。

紅柱石ホルンフェルスは泥質で空晶石を含むことから、京都府和東から笠置にかけて、亀岡付近、茨木市北部付近等にみられるホルンフェルスの一部に似ている。

滑石は和歌山市東部や兵庫県養父郡大屋付近等に産する。場所を限定できないが、近距離では和歌山市東部となる。

樹種鑑定の概要について

(財) 元興寺文化財研究所

1. 切片作成

カミソリの刃を用い遺物の破損面などから直接に木口・柾目・板目面の切片を作成した。切片の作成時に遺物をできるだけ傷つけないように注意すると共に、切片が正確に切れているかを顕微鏡により確認しながら行った。

2. 同定方法

三方向の切片が作成できた段階で、針葉樹については樹脂道・樹脂細胞の有無、樹脂細胞の配列、分野壁孔の形態ラセン肥厚の有無などを、広葉樹については道管の配列状況・穿孔の形態・放射組織の形態と幅などを光学顕微鏡を用いて観察することにより同定を行った。

3. 同定結果

番号	品名	樹種
第25図 63	槌状木製品	カキノキ
第25図 64	槌状木製品	スタジイ
第37図127	鋤	アカガシ
第49図257	有頭棒	スギ
第50図267	槽	ヒノキ
第51図270	田下駄	ネズコ
第51図271	紡織具	ネズコ
第60図309	箱側板	スギ
第69図358	田下駄縦棒	アスナロ
第69図360	杭	アスナロ
第70図365	横槌	サカキ

樹種鑑定の概要について

第70図366	泥除け	アカガシ
第72図385	板	アスナロ

年輪年代と樹種

奈良国立文化財研究所の光谷拓実氏に、木製品数点の年輪年代測定を依頼した。年輪年代を測定し得たのは、第70図367のまな板1点のみであったが、樹種についてはすべてご教示いただいた。ここに年輪年代測定結果と樹種を報告しておく。

番号	品名	樹種	年輪年代
第50図268	槽	ヒノキ	
第58図297	直弧紋板	ヤマザクラ	
第59図298	茄子形木製品	コウヤマキ	
第59図300	腰掛	コウヤマキ	
第70図367	まな板	ヒノキ	A D455年以降

第70図367のまな板の年輪年代は、A D455年以降という結果が出ており、しかも、一部シガタらしいところがあることから、A D500年までは降らないだろうという見解をいただいている。

(大野)

第Ⅳ章 ま と め

1 各時期の概観

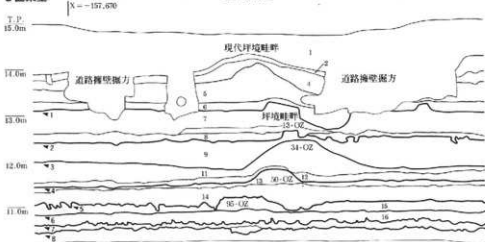
西大井遺跡は旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。平安時代以降は条里型水田が連続として営まれた。また、坪境位置に奈良時代に遡る可能性のある溝を検出した。古墳時代の様相は不明確である。調査区西端の4区において小区画水田を検出したが、時期決定の決め手を欠く。層序からみると、古墳時代前期以降奈良時代以前となる。第8遺構面ベース層出土遺物からみて、古墳時代中期ないし後期と考えることが最も妥当であろう。また調査区中央の埋積浅谷部分では多量の木製品等が出土した。弥生時代では後期に属する土坑群を検出した。これらのなかには土坑墓と考えられるものがあり、既往の調査成果を再確認するとともに、土坑群の北東端を把握することができた。縄紋時代では調査区中央の埋積浅谷部分からサヌカイト石器集積や土坑、自然流路などを検出した。また2区で検出した焼土坑309-OOも遺物は出土していないが縄紋時代の遺構と考えられる。今回の調査では旧石器時代の遺構を検出することはできなかったが、ナイフ形石器や角錐状石器など、多くの旧石器の出土をみた。また2区ではATに対比しうる火山灰層を認めており、今後、より詳細な調査が必要となろう。

2 条里型水田の変遷

西大井遺跡では第1遺構面から、第5遺構面までの5枚の遺構面において条里型水田を検出し、さらに、第6遺構面においてもその可能性を認めることができた。坪境部分の重なりをみると(第138図)、第5遺構面坪境畦畔から一貫して同じ位置に坪境が設けられたことが知られる。つまり当調査区周辺においては平安時代の条里地割が連続と踏襲され今日に至っていると言えるのである。

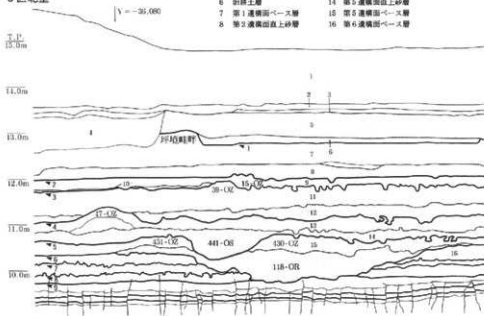
さて、第6遺構面では畦畔の可能性のあるものを1条検出しただけで、条里型水田そのものを広範に検出したわけではない。しかし、南北坪境ラインに溝118-ORが南北方向にはしり、これが条里地割の基線になっている可能性が認められるのである。118-ORは1区・2区では明らかに自然流路であり、流路内からは平安時代に降る土器も若干存在するものの、奈良時代の土器が多く出土する。それに対し3区では118-ORは人工の溝

2 区東壁



- | | |
|---------------|--------------|
| 1 現代盛土 | 9 第2遺構面ベース層 |
| 2 粘土 | 10 第3遺構面直上砂層 |
| 3 灰土 | 11 第3遺構面ベース層 |
| 4 第1遺構面直上砂埋伴層 | 12 第4遺構面直上砂層 |
| 5 第1遺構面直上砂層 | 13 第4遺構面ベース層 |
| 6 紅粘土層 | 14 第5遺構面直上砂層 |
| 7 第2遺構面ベース層 | 15 第5遺構面ベース層 |
| 8 第2遺構面直上砂層 | 16 第6遺構面ベース層 |

3 区北壁



0 (1:80) 2m

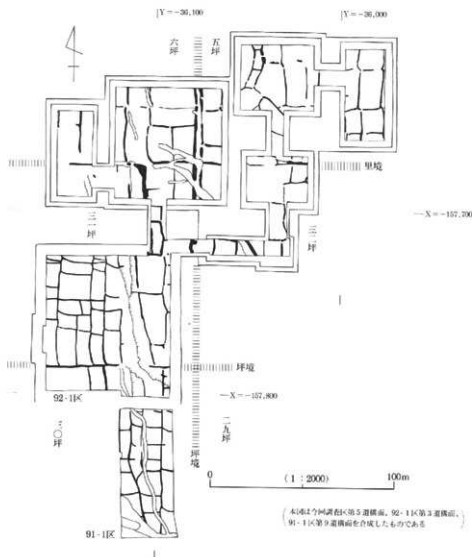
▼ 遺構面

洪水堆積砂層

第138図 坪境畦畔の重なり

と考えられ、出土土器も黒色土器など平安時代に降るものが主で、1区・2区とは様相が異なる。1区・2区の自然流路の大部分が埋没後に、3区に通じる部分が人工的に設けられた可能性が考えられる。第6遺構面の時期は下限は9世紀前葉にあるが、第6遺構面ベース層出土遺物や、上下の層序からみて、上限は8世紀後半に遡る可能性があり、当地域における条里地割の初現期を知るうえで重要なデータと言えよう。

第5遺構面は西大井遺跡において広範囲に条里型水田が認められる遺構面で（第139図）、



第139図 平安時代条里型水田全体図

経営開始の上限が9世紀前半、廃絶が10世紀中葉ないし後葉にある。現行条里と同じ位置に坪境畦畔がはしり、東西の坪境畦畔は里境畦畔でもある。この第5遺構面の条里型水田の特色は、坪内の地割が正方位の地割をめざしてはいるものの部分的に地割の乱れるところがあったり、地割が図式的な長地型・半折型にならない点である。土地条件を克服してまで長地型・半折型の条里型水田を造成しようとはしていないものと考えられるのである。この段階では条里地割の主眼が坪の設定にあり、坪内の区画は副次的な意味しかもっていなかったことをうかがわせる。

第4遺構面から第1遺構面は、洪水によって廃絶した水田の復旧により、新たに造成された条里型水田である。前代の坪境を踏襲し坪境畦畔の位置に変更はないが、水田面の平坦化が進行するとともに、坪内が徐々に整備され図式的な長地型・半折型に変貌していく様子がうかがえる。

第2遺構面の条里型水田を廃絶させた、14世紀後葉ないし15世紀前葉の洪水以降、当調査区では大規模な洪水は認められず、中世後期から近世にかけては安定した耕作が続けられたと考えられる。近代初頭に洪水砂層が1m以上も堆積する大洪水（第1遺構面直上砂層）がおこり、第1遺構面は廃絶するが、復旧は速やかに行われたとみられ、現代の水田と畑の混交した耕地景観が形成されたと考えられる。なお、調査区を東西にはしる里境には近代に至るまで里境畦畔が設けられているが、その規模はとりわけ大規模なわけではなく、里境だからといって特別な施設があったわけではない。規模の点では南北の坪境畦畔の方が勝っているほどである。東西の里境には現代にいたり幅員6mの藤井寺市道が設けられたが、現在ではそれも大井下水処理場の建設によって北に迂回している⁽¹⁾。

3 木製品

今回の調査では埋積浅谷部分を中心に多量の木製品が出土した（第8表）。出土層位は旧耕土層から第8遺構面ベース層に及ぶが、第6遺構面ベース層・第7遺構面ベース層・第6遺構面118-OR・第8遺構面126-OS等が多い。時期的には古墳時代から奈良時代のもものが中心となる。種類別では杭や板が多いが、それらを除くと農耕具が目立つ。なかでも田下駄が計7点出土しており、西大井遺跡の水田が泥田であったことを想像させる。

木製品のなかで注目されるのが第7遺構面ベース層出土の直弧紋板（第58図）である。この直弧紋板は3区東壁断面から出土したもので、層位的には第7遺構面ベース層と第8遺構面126-OS埋土の境目から出土しており、126-OSに含まれていた可能性もある。

第8表 西大井遺跡出土木製品一覧表

種類	遺構・層位		第1遺構面ベース層	第2遺構面ベース層	第3遺構面直上砂層	第3遺構面ベース層	第4遺構面ベース層	第5遺構面直上砂層	第5遺構面ベース層	第6遺構面118-OR	第6遺構面ベース層	第7遺構面ベース層	第8遺構面126-OS	第8遺構面127-OS	第8遺構面128-OS	第8遺構面130-OS	第8遺構面ベース層	合計
	遺構	層位																
農 工 具	鋤								1								1	2
	えぶり							1										1
	泥除け												1					1
	田ト駄									1	1	2						4
	田下駄縦枠											2	1					3
	ツチノコ			1														1
	横楯												1					1
	刀子柄					1												1
	その他																	
日常生活具	曲物	1			1	1												3
	箱側板											1						1
	下駄								1									1
	まな板												1					1
	腰掛											1						1
	槽									2								2
	その他						1					1						2
紡織具											1						1	
建築土木材	杭		1	2				1	2	7	16	11	16	3			2	61
	板							1	1	1	7	14	4		1	1		30
木 簡										4	1							5
用途不明品	槌状木製品				1	1												2
	茄子形木製品											1						1
	直弧紋板											1						1
	杭												2					2
	有頭棒								1			1						2
	その他			3		1	1		3	2	3	9	2					24
合 計		1	1	6	1	4	3	2	9	18	29	44	28	3	1	1	3	154

直弧紋板は表裏の紋様が異なる。どちらが表でどちらが裏かは決めたいが、表裏という関係ではなかったのかもしれない。第58図でいうと、右側は直弧紋のみを線刻している。直弧紋は退化のあまり認められないもので、X字を中心に弧線と直線が配され1単位をなす。その単位が少なくとも4単位認められる。第58図左側は、上部に方形区画を連続させ、下部には間延びした直弧紋(?)が浮彫り風に表現されている。

木製や鹿角製の刀装具では黒漆塗りや直弧紋をいれた例があるが、本例のような長大で表裏の紋様の異なるものは寡聞にして類例を知らない。しかし奈良県宮山古墳出土の形象埴輪のなかに方形筒形で方形区西と直弧紋を線刻したものがあり、これを剣形埴輪とする見解が出されている。⁽²⁾西大井遺跡出土品の場合は表裏の紋様が異なっており、すぐに刀剣形木製品とすることには慎重でなければならないが、大刀あるいは長剣を模したものの可能性も考えておきたい。今後、類例の増えるのを待って検討する必要があるだろう。

4 弥生時代土坑群

第9遺構面において弥生時代後期の200基を越す土坑を検出した。これらの土坑は調査区南西側の、段丘面が露出して高くなったところに分布しているが、その分布には粗密があり、段丘面にまんべんなく分布しているのではなく、まとまりが認められるのである。今回の調査区では、北の方に分布が薄く、南の方に分布が厚いことが指摘できる。また、段丘縁辺を縫うように溝261-O Sがはっており、この溝の南西側に土坑が分布していることが認められる。今回の調査区の南に続く、大阪府教育委員会の92-1調査区では、合計4000基にのぼる土坑群を検出しており、供献土器や脂肪酸分析の結果から、これらを集団墓と結論している。⁽⁴⁾今回の調査区においても供献土器と考えられるものがあり、すべての土坑を墓と考えることはできないにしても、一連の土坑墓群の一端と位置づけてよからう。その場合、全体の土坑群の分布からみて、土坑群の北東端を検出したものと考えておきたい。なお、調査の結果の項では、平面形・断面形・埋土などの要素で土坑の分類を試みたが、土坑群の詳細な分析については今後の課題としておきたい。 (大野)

註

- (1) 西大井遺跡の条里型水田については本書刊行前に担当者の見解を発表したことがある。各遺構面の水田の時期等について異同がある場合は本書をもって結論としたい。

川瀬貴子「西大井遺跡の水田遺構」『大阪府埋蔵文化財協会研究紀要』2 1994 財団法人大阪府埋蔵文化財協会

大野 薫「河内平野の古代中世条里遺構」『ヒストリア』第145号 1994 大阪歴史学会

- (2) 秋山日出雄・網干善教『室大墓』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 第18冊 1959 奈良県教育委員会

(3) 猪熊兼勝『埴輪』日本の原始美術 6 1979 講談社

- (4) 今村道雄『西大井遺跡発掘調査概要 1992年度』1994 大阪府教育委員会

第9表 第9遺構面土坑一覧表

No. 1

遺構番号	区	地区	大きさ (長径×短径：cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋土	遺物	切り合い	備考
145	4	D09V0	85 × 70	18	不整円形	皿形	B			
146	4	D09V0	115 × 87	36	＊	逆台形	B			
147	4	D09V0	54 × 36	8	＊	皿形	B	弥生V葉片		
148	4	D09V0	45 × 31	5	＊	＊	B			
149	4	D09V0	32 × 30	10	＊	＊	B			
150	4	D09W0	65 × 60	30	＊	方形	B			
151	4	D09W0	55 × 40	—	＊	—	—			
152	4	D09W0	105 × 50	25	＊	袋形	C			
153	4	D09X0	(104) × 80	(20)	＊	皿形	C			
154	4	D09W0	78 × 54	18	＊	方形 (凹凸あり)	B			
155	4	D09W0	260 × 60	32	不定形	皿形	C	弥生V葉片		
156	4	D09WN	37 × 35	22	円形	逆台形	A			
157	4	D09V0	53 × 47	27	不整円形	＊	B			
158	4	D09W0	62 × 44	18	＊	皿形	C	縄紋Ⅱ		
159	4	D09WN	81 × 35	33	＊	袋形	C			
160	4	D09W0	48 × 35	14	＊	皿形	D	弥生I		
161	4	D09X0	35 × 35	15	円形	＊	B			
162	4	D09X0	39 × 36	5	＊	＊	B			
163	4	D09X0-XN	(124 × 70)	(25)	不整円形	逆三角形	B			
164	4	D09WN	65 × 55	21	＊	皿形	B			
165	4	D09WN	60 × 54	34	＊	逆台形	C			
166	4	D09WN	28 × 24	26	＊	U字形	B			
167	4	D09WN	30 × 30	16	円形	皿形	C			
168	4	D09WN	102 × 70	22	不整円形	方形 (凹凸あり)	C			
169	4	D09WN	88 × 66	27	＊	方形	B	弥生遺物 片I		
170	4	D09WN	50 × 35	30	＊	逆台形	B			
171	4	D09XN	78 × 54	26	＊	皿形	C			
172	4	D09WM	54 × 48	34	＊	皿形 (凹凸あり)	A			
173	4	D09WM	25 × 25	8	＊	方形	B			
174	4	D09WM	62 × 39	17	＊	＊	C			
175	4	D09XM	100 × (42)	(30)	＊	皿形	C			
176	5	D09XM	(87) × 61	(16)	＊	方形	C	弥生V葉片 部or破片		
177	4	D09UL	26 × 22	30	＊	逆三角形	A			
178	4	D09VL	33 × 27	12	＊	皿形	A			
179	4	D09VM	21 × 20	—	＊	—	—			
180	4	D09WL	16 × 18	8	円形	皿形	B			
181	4	D09XL	137 × (56)	(25)	不整円形	逆台形	B			
182	4	D09LP	50 × 35	17	＊	皿形	B			
183	4	D09LP	80 × 29	17	＊	＊	B			
184	4	D09LP	117 × 89	17	＊	逆三角形	C	弥生V葉片		
185	4	D09VP	94 × 70	10	＊	＊	C			
186	4	D09VP	36 × 30	9	＊	皿形	C			185を切る
187	4	D09VQ	51 × 40	22	＊	皿形	B	弥生V葉片		
188	4	D09VP	25 × 25	9	円形	方形	B			
189	4	D09VP	60 × 50	22	不整円形	皿形	B	弥生V葉片		
190	4	D09VP	70 × 55	4	＊	皿形	C			
191	4	D09VP	72 × 43	15	＊	＊	C			
192	4	D09VQ	66 × 58	7	不整円形?	＊	B			
193	4	D09WQ	(36 × 32)	(10)	不整円形	＊	B			
194	4	D09VP	68 × 51	16	＊	方形 (凹凸あり)	C			
195	4	D09VP	125 × 88	17	＊	皿形 (凹凸あり)	C			
196	4	D09WP	53 × 24	7	＊	皿形	B			
197	4	D09WP	40 × 35	5	＊	＊	B			
198	4	D09WQ	25 × 18	6	＊	＊	B			
199	4	D09WP	112 × 59	16	＊	方形	C	弥生V葉片 庄内破片		300を切る
200	4	D09WP	114 × 44	7	＊	＊	C			
201	4	D09WP	65 × 56	11	＊	皿形	C			
202	4	D09XP	(60) × 48	(8)	＊	＊	B			
203	4	D09XP	(60 × 26)	(7)	不整円形?	＊	B	弥生V葉片		
204	4	D09VP	(48 × 11)	(24)	＊	＊	C			
205	4	D09V0	62 × 43	22	不整円形	方形	B			
206	4	D09UP	(78 × 40)	—	＊	—	—			
207	4	D09UP	(42 × 40)	21	円形	方形 (凹凸あり)	C			300を切る
208	4	D09UP	64 × 54	18	不整円形	方形	C			
209	4	D09SP	66 × 54	13	＊	皿形	A	ヤスカイト		210を切る

第9表 第9遺構面土坑一覧表

No. 2

遺構番号	区	地 区	大きさ (長径×短径：cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋 土	遺 物	切り合い	備 考
210	4	D095Q	101 × 70	12	不整形	皿形	A			
211	4	D095Q	(105 × 35)	(8)	〃	〃	A			
212	4	D095P	103 × 94	16	円形	皿形	A			
213	4	D097P	72 × 52	30	不整形	方形	A			
214	4	D097P	81 × 55	8	〃	皿形	A			
215	4	D097Q	(28 × 16)	(12)	不整形?	方形	A			
216	4	D097P	60 × 40	6	不整形	皿形	A			
217	4	D097P	95 × 53	—	〃	〃	—			
218	5-1	D097S	40 × 36	28	〃	皿形	A			
219	5-1	D097Q	89 × 70	3	〃	〃	B			
220	5-1	D097R	35 × 27	8	〃	〃	C			
221	5-1	D097R	37 × 28	10	〃	〃	C			
222	5-1	D097R	64 × 52	6	〃	〃	C			
225	5-1	D097Q	69 × 43	17	〃	方形	B			
225	5-1	D097Q	66 × 61	20	〃	皿形	B			
226	5-1	D097R	65 × 52	8	〃	〃	C			
227	5-1	D097Q	108 × 65	13	〃	〃	D			
228	3	D097U	55 × 46	5	〃	〃	B			
229	3	D097T	50 × 38	4	〃	〃	B			
230	3	D097X	42 × 40	8	円形	〃	C			
231	3	D097V	45 × 34	7	不整形	〃	B			
232	3	D097V	42 × 32	8	〃	〃	B			
233	3	D097V	66 × 40	2	〃	〃	B			
234	3	D097X	53 × 32	9	〃	〃	B			
235	3	D097X	27 × 27	7	円形	〃	B			
236	3	D097X	70 × 47	11	不整形	〃	C			
237	3	D097X	45 × 30	6	〃	〃	B			
238	4	D097I	105 × 90	25	円形	逆台形	A	劣化腐乱、 石瓦等		
239	4	D095L	(137 × 42)	(21)	不整形	方形	R			
240	4	D097L	27 × 36	32	円形	U字形	R			
241	4	D097M	35 × 29	23	不整形	方形	A			
242	4	D097N	39 × 28	8	円形	〃	A			
243	4	D097P	22 × 18	12	不整形	逆台形	B			
244	4	D095N	27 × 25	22	円形	方形	A			
245	4	D095M	117 × 46	50	不整形	U字形	B			
246	4	D095P	(44 × 18)	(26)	円形?	皿形	A			
247	4	D095Q	108 × 58	22	不整形	〃	A			
248	4	D097I	34 × 34	—	円形	—	—			
249	4	D097N	70 × 33	25	不整形	方形	B			
250	3	D097U	49 × 30	20	〃	〃	B	サマカイト1		
251	3	D097W	40 × 36	23	〃	皿形	A			
252	3	D097W	42 × 36	12	〃	〃	A			
253	3	D097U	56 × 40	3	〃	〃	B			
254	3	D097U	52 × 41	8	〃	〃	B			
255	3	D097T	35 × 22	6	〃	〃	D			
256	3	D097T	45 × 38	20	〃	逆台形 (R内あり)	B			
257	3	D095V	38 × 30	12	〃	方形	C			
258	3	D095V	66 × 42	8	〃	皿形	C			
259	3	D094U-Q-V	277 × 70	32	不定形	〃	上層A?層B			
260	3	D097V-P-W	327 × 43, 70	25	〃	方形	A			上層Bに 含まない
407	5-1	D097R	35 × 27	5	不整形	皿形	D			
408	5-1	D097R	54 × 49	16	〃	〃	B			
371	4	D097L	21 × 19	6	円形	〃	A			
372	4	D097N	24 × 24	8	〃	〃	A			
277	4	D097M	35 × 28	15	不整形	〃	A			
278	3	D097N	35 × 21	10	〃	〃	その域 (埋 オリーブ属 色粘土)			土坑群に 含まない
280	3	D097V	30 × 30	8	〃	〃	B			
281	3	D097X	65 × 41	3	〃	〃	B			
339	5-2	D097Y	38 × 25	14	〃	〃	B			
340	5-2	D15A	30 × 30	7	円形	〃	A			
341	5-2	D14B Y	30 × 22	8	不整形	〃	A	劣化V層片、 サマカイト		
342	5-2	D15B A	33 × 38	9	方形	〃	A			
343	5-2	D15B A	29 × 31	8	不整形	〃	D			
344	5-2	D14B Y	(68 × 16)	(12)	方形?	〃	B			
345	5-2	D15C A	50 × 38	30	不整形	〃	上層B?層C			
346	5-2	D14C Y	75 × 30	3	〃	方形	B			
347	5-2	D15C A	46 × (27)	(10)	不整形	〃	B			

第9表 第9遺構面土坑一覧表

No. 3

遺構番号	区	地区	大きさ (長径×短径: cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋土	遺物	切り合い	備考
348	5-2	D15CA	68 × 42	24	不整形内形	皿形	上層A中層C下層D			
349	5-2	D14CY	91 × 68	30	〃	〃	上層B中層C下層D			
350	5-2	D14CY	61 × 48	11	〃	〃	A			
351	5-2	D15DA	36 × 32	3	〃	〃	B			
352	5-2	D14DY	92 × 72	8	〃	〃	B			
353	5-2	D14DY	48 × 38	22	〃	U字形	A		354を切る	
354	5-2	D14DY	40 × 34	26	〃	〃	上層A下層C			
355	5-2	D14DY	87 × 48	9	〃	方形	B			
356	5-2	D14DY	78 × 54	9	〃	〃	C		357を切る	
357	5-2	D14DY	96 × 40	16	〃	皿形	C	角巾V型片、弥生要光形		
358	5-2	D15EA	42 × 39	10	円形	〃	B			
359	5-2	D15EA	58 × 50	48	不整形内形	U字形	A	土器ニニツブテ型、布留置		
360	5-2	D14EY	88 × 60	10	〃	方形	B			
361	5-2	D14EY	(77) × 70	(12)	〃	〃	上層A下層D			
362	5-2	D14FY	60 × 43	21	〃	方形 (凹凸あり)	その他			
363	5-2	D14FY	79 × 57	18	〃	皿形	B		364・369を切る	
364	5-2	D14FY	(50) × 30	4	〃	方形	A			
365	5-2	D14FY	50 × 34	14	円形	皿形	上層A下層D			
366	5-2	D14FY	44 × 40	11	不整形内形	方形	上層A下層D		365を切る	
367	5-2	D14FY	78 × 58	27	〃	方形	A			
368	5-2	D15EA	50 × 25	6	〃	〃	A			
369	5-2	D15EA	41 × 30	16	〃	〃	上層A下層D			
370	5-2	D15EA	65 × 42	5	〃	〃	B			
371	5-2	D15EA	55 × 33	23	〃	方形	A			
372	5-2	D15FA	42 × 41	23	円形	皿形	C			
373	5-2	D15FA	(62 × 44)	(25)	不整形内形	方形?	A			
374	5-2	D15FA	34 × 28	5	〃	〃	B			
375	5-2	D15FA	91 × 35	18	〃	皿形	上層A下層D			
376	5-2	D15XA	41 × 40	18	円形	〃	A			
377	5-2	D15CB	23 × 20	8	〃	〃	B			
378	5-2	D15DB	28 × 26	4	〃	〃	B			
379	5-2	D15DB	25 × 18	11	方形	方形	A			
380	5-2	D15DB	25 × 21	4	〃	〃	A			
381	5-2	D15DB	87 × 67	34	不整形内形	逆台形	A			
382	5-2	D15DB	26 × 25	11	円形	皿形	B			
383	5-2	D15DB	16 × 16	11	〃	逆台形	B			
384	5-2	D15DB	24 × 18	15	不整形内形	〃	C			
385	5-2	D15EB	92 × 74	57	〃	方形	上層A中層C下層D			
386	5-2	D15FB	24 × 22	8	円形	皿形	A			
387	5-2	D15FA	60 × 46	4	不整形内形	〃	D			
388	5-2	D15FA	59 × 36	3	〃	〃	B			
389	5-2	D14FY	30 × (12)	3	〃	〃	B			
390	5-2	D14FY	50 × 44	7	円形	〃	C			
391	5-2	D14FY	— × 64	18	—	〃	C	弥生1		
392	5-2	D15DA	65 × 36	10	不整形内形	〃	C			
394	5-2	D14FY	85 × 70	12	〃	〃	C	弥生層		
395	5-2	D14FY	(64 × 20)	(8)	〃	〃	C			
396	5-2	D15FA	(88 × 54)	—	〃	逆台形	—			
397	5-2	D15FA	90 × 90	19	円形	〃	B			
398	5-2	D15FA	40 × 38	20	〃	方形 (凹凸あり)	上層B中層C下層D			
399	5-2	D15FC	73 × 50	35	不整形内形	方形	上層A中層B下層C			
400	5-2	D15FC	67 × 60	8	〃	方形	A			
401	5-2	D14FY	(38 × 30)	30	不整形内形?	方形	B			
402	5-2	D14EY	(185 × 58)	(24)	不整形内形	皿形	C			
403	5-2	D14DY	45 × 34	6	〃	〃	B			
404	5-2	D14DY	(55) × 52	11	〃	〃	C			
405	5-2	D14DY	(89 × 55)	(9)	〃	〃	C			
406	5-2	D14CY	(70) × 38	(13)	不整形内形?	〃	C			
407	5-2	D14CY	61 × 33	15	不整形内形	〃	B			

第9表 第9遺構面土坑一覧表

No. 4

表裏番号	区	地区	大きさ (長径×短径：cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋土	遺物	切り合い	備考
408	5-2	D14CY	(20 × 8)	—	円形	—	—	—	—	—
409	5-2	D14CY	(50 × 22)	(16)	不整形円形?	皿形	C	—	408を切る	—
410	5-2	D14CY	(26 × 20)	(12)	—	—	C	—	—	—
411	5-2	D14CY	(63 × 30)	(14)	—	—	C	弥生前期土、 サヌカイト3	—	—
412	5-2	D14BY	35 × 30	9	円形?	—	C	—	—	—
413	5-2	D14BY	(24 × 20)	(7)	方形	—	B	—	—	—
414	5-2	D14GY	(80 × 34)	(25)	不整形	方形	—	—	—	—
470	5-2	D157A	45 × 36	—	不整形円形	—	—	—	—	—
713	7	D09L N	80 × 80	42	—	方形	A	—	—	—
714	7	D09L P	(84 × 76)	34	円形	皿形	A	—	—	—
715	7	D09L Q	(88) × 56	(17)	不整形円形?	—	上層A下層C	—	—	—
716	7	D09M O	32 × 30	(23)	円形	—	上層A下層C C下層D	—	—	—
717	7	D09N O	48 × 40	13	不整形円形	—	上層A 下層C	—	—	—
718	7	D09N U	30 × 21	8	円形	—	C	—	—	—
719	7	D09L L	30 × 26	6	—	—	上層B下層C	—	—	—
720	7	D09L M	38 × 32	12	円形?	—	A	—	—	—
721	7	D09L M	(33) × 60	9	不整形円形?	—	A	—	—	—
722	7	D09L O	(80 × 30)	9	方形?	—	上層B下層C	—	—	—
723	7	D09L O	(66 × 24)	(4)	円形?	—	C	—	—	—
724	7	D09L L	(24 × 15)	—	円形	—	—	—	—	—
729	7	D09M P	(32)	—	円形?	—	—	—	—	—

第10表 1区第9遺構面土坑一覧表

遺構番号	区	地区	大きさ (長径×短径：cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋土	遺物(片)	切り合い	備考
282	1	D10C U	51 × 40	14	不整形円形	皿形	7.5Y4/1 灰色粘土	なし	—	—
283	1	D10D V	76 × 55	32	—	—	5Y3/1オリーブ 黒色粘土	土師器12、須磨器1 弥生土器7、土師器24、須磨器14、石器1、サヌカイト1	—	—
284	1	D10E V	(235 × 182)	50	—	—	—	弥生土器6、土師器5	286に切られる	—
285	1	D10E V	60 × 54	23	—	—	—	弥生土器7、土師器26、須磨器5	—	—
286	1	D10E V	108 × 102	24	—	—	—	弥生土器4、須磨器3	—	—
287	1	D10E V	123 × 73	10	—	—	—	土師器72、須磨器7、壺・実1	—	—
288	1	D10E V	113 × 55	7	—	—	5Y4/1灰色硬質粘土	弥生土器5、土師器3、須磨器1、サヌカイト1	—	—
289	1	D10E V	102 × 70	15	—	—	5Y3/1オリーブ 黒色粘土	土師器5	—	—
290	1	D10E U	46 × 40	12	円形	—	5Y4/1灰色硬質粘土	弥生土器5、土師器7、須磨器2	290・292に切られる	—
291	1	D10E U	(160 × 70)	13	不整形円形	—	—	弥生土器3、土師器43、須磨器2、サヌカイト1	—	—
292	1	D10E U	73 × 54	31	—	—	2.5Y3/1黒褐色硬質粘土	サヌカイト1	—	—
293	1	D10F U	86 × 43	15	—	—	5Y3/1オリーブ 黒色硬質粘土	弥生土器15、サヌカイト2	—	—
294	1	D10F U	(140 × 135)	25	—	—	10Y2/1オリーブ 黒色硬質粘土	なし	—	—
295	1	D10F U	(178 × 150)	26	—	—	5Y3/1オリーブ 黒色粘土	—	—	—

第11表 土器観察表

()は復元値を示す

No. 1

№	区	地区	層位・遺構	器類	器種	数量 個	出土	地況	色調	備考
第11区 1	2	D10TM	第1遺構面 ベース層	染付	碗	残存高 5.7cm 高台径 4.0cm	底 0.5cm以下の灰、 白色砂粒含む	真	外 黄灰(10BG5/1) 断 明緑灰(10GY8/1) 断 灰白(N8/0) 内 明緑灰(10GY8/1)	
第11区 2	3	D10YE	第1遺構面 ベース層	染付	皿	口 径 5.9cm 器 高 3.5cm 高台径 3.8cm	緑 密	真		
第11区 3	6	A06ED	第1遺構面 ベース層	瓦器	皿	口 径 9.2cm 器 高 2.3cm	1cm以下の白色 砂粒含む	真	外 灰(N4/0) 断 —— 内 灰(N4/0)	
第17区 10	4	D09XM	第2遺構面 直上砂層	瓦器	碗	口 径(13.6cm) 残存高 4.6cm	緑 密	真	外 灰(N4/0) 断 灰(N6/0) 断 灰白(7.5Y7/1) 内 灰(N4/0)	
第17区 11	1	D10FW	第2遺構面 直上砂層 第2遺構面 ベース層	土師器	杯皿	口 径(13.0cm) 残存高 5.0cm	1cm以下の白色 粒含む	真	外 浅黄緑(10YR8/3) 断 灰白(10YR8/2) 内 灰白(10YR8/2)	
第17区 12	1	A06MA	第2遺構面 直上砂層	瓦器	皿	口 径(9.4cm) 残存高 2.8cm	緑 密	真	外 灰(N5/0) 断 灰白(2.5GY8/1) 内 灰(N4/0)	
第17区 13	6	A06MD	第2遺構面 直上砂層	土師器	皿	口 径(9.2cm) 残存高 1.4cm	緑 密	真	外 浅黄(2.5Y7/2) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 灰白(2.5Y7/1)	
第17区 14	1	D10FU	第2遺構面 直上砂層	土師器	皿	口 径 10.2cm 残存高 1.2cm	緑 密	真	外 浅黄緑(7.5YR8/3) 断 浅黄緑(7.5YR8/3) 断 灰白(5Y8/1) 内 浅黄緑(7.5YR8/3)	
第17区 15	6	A06CC	第2遺構面 直上砂層	須恵器	皿	口 径(13.5cm) 残存高 5.3cm	2.5cm以下の小 石1つと1cm以 下の白色砂粒含 む	真	外 灰白(N7/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰白(N7/0)	
第18区 16	4	D09WQ	第2遺構面 ベース層	瓦器	碗	口 径(15.4cm) 残存高 5.8cm	緑 密	真	外 暗青灰(SBG4/1) 断 灰白(N8/0) 内 灰(N4/0)	
第18区 17	3	D09UW	第2遺構面 ベース層	瓦器	碗	口 径(16.6cm) 残存高 4.2cm	緑 密	真	外 灰(N4/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰(N4/0)	
第18区 18	2	D10RN	第2遺構面 ベース層	土師器	杯A	口 径(16.3cm) 残存高 3.8cm	緑 密	真	外 浅黄緑(10YR8/3) 断 灰白(10YR8/2) 内 灰白(10YR8/2)	
第18区 19	1	D10ET	第2遺構面 ベース層	黒色 土師A	杯A	口 径(13.0cm) 残存高 3.4cm	2cm以下の白色 粒含む	真	外 にぶい黄緑(10YR7/2) 断 灰白(10YR8/2) 内 濁灰(10YR4/1)	
第18区 20	3	D06JW	第2遺構面 ベース層	瓦器	皿	口 径(9.2cm) 残存高 1.9cm	緑 密	真	外 暗オリーブ灰(2.5GY4/1) 断 暗オリーブ灰(2.5GY7/1) 内 暗オリーブ灰(2.5GY4/1)	

第11表 土器観察表

() は複元値を示す

No.2

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	口径 φ cm	高さ cm	胎土	完成 色調	備考
第1408 21	6	A08R	第2遺構面 ベース層	土師器	甕	口径(8.8cm) 残存高 1.8cm		織密	良	外 赤い黄緑(10YR7/2) 断 赤い黄緑(10YR7/3) 内 赤い黄緑(10YR7/3)
第1408 22	2	D10SS	第2遺構面 ベース層	土師器	甕	口径(10.2cm) 残存高 2.1cm		2~3mm程度の 白色小石少量含む	良	外 赤(2.5YR6/6) 断 赤い黄緑(10YR7/2) 内 赤い黄(7.5YR6/4)
第2208 28	3	D06JY	第3遺構面 直上砂層	瓦器	甕	口径 15.0cm 器 高 5.5cm 高台径 6.5cm		1m大の白・赤・ 灰色砂粒含む	良	外 灰白(2.5Y8/1) 裏(5Y2/1) 断 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(2.5Y8/1) 裏(5Y2/1)
第2208 29	3	D10RP	第3遺構面 直上砂層	瓦器	甕	口径(16.0cm) 残存高 4.1cm		織密	良	外 灰(N5/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰(N5/0)
第2208 30	3	D10SP	第3遺構面 直上砂層	土師器	杯	口径(15.4cm) 残存高 2.9cm		織密	良	外 灰白(5Y8/2) 断 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(2.5Y8/2)
第2208 31	3	D06JU	第3遺構面 直上砂層	土師器	鉢	口径(13.1cm) 器 高 6.6cm		1~3mm程度の 白色砂粒含む	良	外 赤(7.5YR6/6) 断 赤灰(10YR6/1) 内 赤灰(7.5YR5/1)
第2208 32	3	D10VD	第3遺構面 直上砂層	瓦器	甕	口径(8.7cm) 残存高 2.3cm		織密	良	外 灰(N5/0) 断 灰白(N5/0) 内 灰(N5/0)
第2208 33	7	D06LO	第3遺構面 直上砂層	土師器	甕	口径 9.3cm 器 高 2.0cm		織密	良	外 灰白(5Y7/1) 断 赤黄(5Y7/3) 内 灰白(5Y7/2)
第2208 34	3	D10SD	第3遺構面 直上砂層	土師器	甕	口径 8.9cm 器 高 1.8cm		織密	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 赤灰(2.5Y6/1) 内 赤い黄緑(10YR7/4)
第2208 35	3	D06WX	第3遺構面 直上砂層	土師器	甕	口径(9.2cm) 残存高 1.5cm		織密	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 赤い黄(10YR7/2)
第2208 36	3	D06JV	第3遺構面 直上砂層	土師器	甕	口径(9.4cm) 残存高 1.4cm		織密	良	外 明黄緑(10YR6/6) 断 赤い黄緑(10YR7/3) 内 赤い黄緑(10YR7/2)
第2208 37	3	D10JC	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦器	甕	口径(15.1cm) 器 高 5.9cm 高台径(6.0cm)		織密	良	外 灰白(5Y7/1) 断 灰(N3/0) 内 灰白(5Y7/1) 赤灰(N3/0)
第2208 38	3	D10SC	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦器	甕	口径(15.6cm) 残存高 4.8cm		織密	良	外 赤灰(N3/0) 断 灰白(N3/0) 内 赤灰(N3/0)
第2208 39	3	D10LU	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦器	甕	口径(14.8cm) 残存高 4.8cm		織密	良	外 灰(N4/0) 断 灰白(N3/0) 内 灰(N4/0)

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No. 3

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 寸法	胎土	焼成	色調	備考
第2326 40	4	D0600	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦器	陶	口径(15.6cm) 残存高 4.6cm	凝 密	良	外 灰(N4-0) 灰白(N8-0) 内 灰(N4-0)	
第2326 41	3	D068T	第3遺構面 ベース層 (上)	黒色 土器A	陶	口径 14.8cm 器高 6.1cm 高台径 6.5cm	2mm以下の灰・ 白色砂粒含む	良	外 黒(N2-0) 灰黄緑(10YR6/2) 灰白(N8-0) 内 黒(N2-0) 灰黄緑(10YR6/2)	
第2326 42	5-3	D15ED	第3遺構面 ベース層 (上)	黒色 土器A	甕	口径(14.5cm) 残存高 5.9cm 高台径(5.6cm)	5mm大の白・石 1つと3mm以下の 白色粒少量含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 灰白(2.5Y7/1) 内 灰(N4-0)	
第2326 43	3	D06MW	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	杯A	口径(15.5cm) 残存高 4.1cm	1.5mm以下の白 色粒少量含む	良	外 灰白(2.5Y8-2) 灰白(2.5Y8-2) 灰(N4-0) 内 灰白(2.5Y8-2)	
第2326 44	4	D06UQ	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	杯A	口径 14.8cm 器高 3.6cm	1~3mm程度の 白色砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7-4)	
第2326 45	3	D06RV	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	杯A	口径(14.6cm) 器高 3.9cm	2mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白(10YR8/1) 灰白(10YR8/1) 内 灰白(10YR8/1)	
第2326 46	3	D16FP	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	杯A	口径(14.0cm) 残存高 2.1cm	凝 密	良	外 灰白(5Y7/2) 灰白(5Y8/2) 内 灰白(5Y7/2)	
第2326 47	3	D16NE	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	杯A?	口径(12.0cm) 残存高 2.7cm	1mm以下の赤色 砂粒含む	良	外 灰白(2.5Y8-2) 灰黄(2.5Y7-3) 内 灰白(2.5Y8-2)	
第2326 48	3	D10OD	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径(11.4cm) 残存高 1.6cm	1mm以下の白色 砂粒少量含む	良	外 灰白(2.5Y7/1) 黄灰(2.5Y6-1) 内 灰白(2.5Y7/1)	
第2326 49	3	D10MP	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径(10.0cm) 残存高 1.6cm	凝 密	良	外 灰黄(2.5Y8-3) 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄(2.5Y8-3)	
第2326 50	3	D09VW	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径(10.0cm) 器高 1.8cm	凝 密	良	外 灰白(2.5Y8-1) 灰(N6-0) 内 灰白(2.5Y8-2)	
第2326 51	3	D06QV	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径 9.0cm 器高 1.6cm	凝 密	良	外 灰オリーブ(5Y6-2) 灰白(5Y7-1) 内 オリーブ黄(5Y6-3)	
第2326 52	5-1	D06TS	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径(10.1cm) 残存高 1.4cm	凝 密	良	外 灰白(5Y8/1) 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(5Y8/1)	
第2326 53	3	D100F	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口径 9.7cm 器高 1.5cm	1~3mm程度の 砂粒含む	良	外 緑(2.5Y6/6) 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄(2.5Y7-3)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No. 4

№	区	地 区	層位・遺構	種類	器種	法量 径 g	胎 土	焼成	色 調	備 考
第23図 54	3	D09MW	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口 径(9.5cm) 残存高 1.6cm	1mm以下の白色 砂粒少量含む	良	外 灰黄(2.5Y8/3) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 灰白(2.5Y7/1)	
第23図 55	3	D09LX	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	皿	口 径(9.4cm) 残存高 1.5cm	緻 密	良	外 灰白(5Y8/2) 断 灰白(5Y8/2) 内 灰白(5Y7/2)	
第23図 56	3	D10XP	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	鉢	残存高 8.1cm 高台径 10.6cm	3mm大の白・灰 色小石含む	良	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 断 にぶい黄褐色(10YR5/4) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	
第23図 57	3	D10WP	第3遺構面 ベース層 (上)	土師器	調整	口 径(22.1cm) 残存高 5.9cm	5mm大の白い小 石1つと3mm以 下の白色粒を多 く含む。金雲母 あり	良	外 にぶい黄(7.5YR6/3) 断 にぶい黄(7.5YR6/3) 内 にぶい黄褐色(10YR5/4)	
第23図 58	7	D09AM D09AN	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦	丸瓦	残存長 22.6cm 残存幅 11.9cm	3mm以下の白色 粒含む	良	外 灰白(7.5Y7/1) 断 オリーブ灰(2.6GY7/1) 内 灰(N4.0)	
第23図 59	3	D09TY	第3遺構面 ベース層 (上)	瓦	軒丸瓦	残存長 10.5cm	2.5mm大の白・ 灰・茶色砂粒含 む	良	外 灰白(2.5Y8/2) 断 灰白(2.5Y8/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	重傷破
第24図 60	7	D09L	第3遺構面 ベース層 (下)	黒色 土器A	鉢	口 径 11.7cm 残存高 5.4cm	器 1.5mm大の白色 小石含む	良	外 灰黄(7.5YR6/2) 断 (N1.5/0) 内 灰黄褐(10YR6/2) 断 (N1.5/0)	
第24図 61	3	D09PY	第3遺構面 ベース層 (下)	黒色 土器A	鉢	口 径(16.0cm) 残存高 4.25cm	1mm以下の白・ 灰色砂粒含む	良	外 にぶい赤黄(5YR5/3) 断 にぶい黄褐色(10YR7/2) 内 暗灰(N3.0)	
第24図 62	3	D10FE	第3遺構面 ベース層 (下)	土師器	杯A?	口 径(10.1cm) 残存高 2.3cm	2mm大の黒色粒。 1mm大の白色砂 粒を含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 灰白(5Y7/2) 内 灰白(2.5Y8/2)	
第28図 67	6	A09AB	第4遺構面 直上砂層	須恵器	杯B	残存高 3.7cm 高台径(11.5cm)	1～2mm大の砂 粒を含む	良	外 灰白(N7.0) 断 にぶい黄(7.5YR7/4) 内 灰白(10Y7/1)	
第26図 68	1	D10JT	第4遺構面 直上砂層	土師器	皿	口 径(11.1cm) 器 高 1.7cm	緻 密	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第26図 69	2	D10TE	第4遺構面 直上砂層	土師器	皿	口 径(10.2cm) 残存高 2.0cm	緻 密	良	外 暗緑(5Y3.6/3) 断 灰(5Y6/1) 内 暗緑(5Y3.6/3)	
第26図 70	1	D10GV	第4遺構面 直上砂層	土師器	鉢	口 径(27.1cm) 残存高(5.3cm)	4mm以下の白色 粒含む	良	外 灰白(2.5Y7/1) 断 灰黄(2.5Y7/3) 内 黄黄(2.5Y7/3)	
第26図 71	1	D10DQ	第4遺構面 直上砂層	土師器	鉢	口 径(18.5cm) 残存高(4.0cm)	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰(5Y4/1) 断 灰(5Y6/1) 内 灰(5Y4/1)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No. 5

№	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 寸法	胎土	焼成	色調	備考
第28回 72	6	A000F	第4遺構面 直上砂層	土師器	調羹	口径(22.2cm) 残存高 7.30cm	2~4mm大の白・ 灰・茶色小石及び 1mm大の灰・ 白・茶色砂粒含む	良	外 灰黄褐(10YR6/2) 底灰(10YR4/1) 断 灰黄褐(10YR6/2) 底灰(10YR4/1) 内 灰黄褐(10YR6/2)	
第28回 73	6	A000F	第4遺構面 直上砂層	土師器	高杯	残存高 8.0cm 底径 11.0cm	3mm以下の白色 粒少量含む	良	外 にぶい-黄(7.5YR7/4) 断 にぶい-黄(7.5YR7/4) 内 にぶい-黄(10YR7/4)	胴部のみ
第28回 74	6	A001A	第4遺構面 直上砂層	土師器	高杯	残存高 8.6cm	2mm以下の白・ 灰色砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 灰黄(2.5Y7/3) 内 灰黄(2.5Y7/3)	胴部のみ
第28回 75	6	A001A	第4遺構面 直上砂層	土師器	高杯	残存高 7.3cm 底径 11.5cm	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 にぶい-黄(7.5YR7/3) 内 にぶい-黄(2.5Y6/3)	胴部のみ
第29回 76	3	D108B	第4遺構面 ベース層	黒色 土師A	碗	口径 14.0cm 器高 6.1cm 高台径 5.6cm	1~3mm大の白・ 灰色小石及び、 1mm以下の白・ 灰色砂粒含む	良 断 内	外 黒(N2/0) 灰黄(2.5Y7/2) 断 黒(N2/0)	
第29回 77	5-1	D097S	第4遺構面 ベース層	土師器	杯口	口径 12.5cm 器高 4.6cm 高台径 6.0cm	2mm程度の砂粒 含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 にぶい-黄褐(10YR6/3) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第29回 78	4	D098O	第4遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(15.9cm) 残存高 3.4cm	細造	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰白(5YR4/2) 内 灰黄(5Y7/2)	
第29回 79	7	D06LL	第4遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(11.8cm) 器高 3.8cm	3mm大の白色粒 を1つ含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第29回 80	2	D108P	第4遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(12.3cm) 器高 2.6cm	2~3mm程度の 砂粒を含む	良	外 にぶい-黄褐(10YR7/3) 断 にぶい-黄(7.5YR5/4) 内 にぶい-黄褐(10YR7/3)	
第29回 81	5-3	D158N	第4遺構面 ベース層	土師器	類似土師	口径(10.4cm) 残存高 4.8cm	2mm以下の白色 粒含む	良 断	外 灰白(10YR6/1) 断 灰白(10YR6/1) 内 灰白(10YR6/1)	
第34回 86	5-4	D158P	第5遺構面 直上砂層	土師器	杯B	口径(11.4cm) 器高 4.3cm 高台径 4.4cm	4mm大灰白粒1 つ0.5mm以下白 色・灰色粒含む	良	外 にぶい-黄褐(10YR7/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 断 にぶい-黄褐(10YR7/3) 内 断(5YR6/6) にぶい-黄褐(10YR7/3)	
第34回 87	3	D06LV	第5遺構面 直上砂層	土師器	杯A	口径 11.0cm 器高 2.9cm	1~2mm程度の 白色砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 にぶい-黄褐(10YR7/3) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第34回 88	3	D097W	第5遺構面 直上砂層	土師器	杯A	口径 10.1cm 器高 2.5cm	2mm以下の黒・ 灰・白色粒含む	良	外 断(5Y7/6) 断 にぶい-黄褐(10YR7/3) 断 にぶい-黄褐(10YR7/3) 内 断(5YR6/6) にぶい-黄褐(10YR7/4)	
第34回 89	3	D06NV	第5遺構面 直上砂層	土師器	杯A	口径 10.6cm 器高 3.2cm	1~2mm程度の 白色砂粒含む	良	外 断黄褐(10YR7/6) 断 ———— 内 にぶい-黄褐(10YR6/4)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No. 6

№	区	地区	層位・遺物	種類	器種	数量 個	胎土	焼成	色調	備考
第34図 90	3	D08PU	第5遺構面 直上砂層	土師器	罍	残存高 4.0cm	3mm大の白色粒 多量に含む	良	外 浅黄(2.5Y7/3) 新 灰白(2.5Y7/2) 内 黄褐(2.5Y5/3)	
第34図 91	3	D08PU	第5遺構面 直上砂層	土師器	罍	残存高 5.1cm	3mm以下赤色 粒含む	良	外 にぶい黄褐(10YR6/4) 灰(7.5Y6/1) 新 黄褐(2.5Y5/3) 内 黄褐(2.5Y5/3)	
第34図 92	3	D09-	第5遺構面 直上砂層	須恵器	罍	口径(22.4cm) 残存高(3.2cm)	黄 泥	良	外 灰(N6/0) 新 灰白(7.5Y7/2) 内 灰(N6/0)	
第34図 93	3	D08KU	第5遺構面 直上砂層	須恵器	罍	口径(19.8cm) 残存高 4.5cm	2mm以下の白色 粒含む	良	外 灰(7.5Y5/1) 灰白(7.5Y6/2) 新 黄褐(5YR6/1) 灰(7.5Y6/1) 内 灰(7.5Y6/1)	
第34図 94	3	D08XW	第5遺構面 直上砂層	土師器	高杯	残存高 9.2cm 底径 10.8cm	1mm以下の白色 粒含む	良	外 灰白(5Y7/1) 黒(5Y2/1) 新 黄(5Y7/5) 内 にぶい黄褐(10YR7/3) にぶい黄褐(10YR7/3) 黒(5Y2/1)	脚部の み
第34図 95	3	D08VX	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	口径 6.1cm 器高 4.0cm	1.5mm以下の砂 粒含む	良	外 新(5YR6/6) 明褐色(7.5YR7/2) 内 黄(5YR6/6)	
第34図 96	3	D08OU	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	残存高 3.9cm 底径 3.6cm	1mm以下の砂粒 含む	良	外 にぶい黄(2.5Y6-2) 新 にぶい黄(2.5Y6-2) 内 にぶい黄(2.5Y6-3)	脚部の み
第34図 97	3	D08QT	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	残存高 3.1cm 底径 3.3cm	2mm以下白色粒 含む	良	外 にぶい黄褐(10YR7/4) 新 にぶい黄褐(10YR7/4) 内 にぶい黄褐(10YR7/4)	脚部の み
第34図 98	3	D08MV	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	口径 5.9cm 残存高 3.0cm	2mm以下の砂粒 含む	良	外 にぶい黄(7.5YR7/3) 新 にぶい黄(7.5YR7/3) 内 にぶい黄(7.5YR7/3)	
第34図 99	3	D08VW	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	残存高 3.1cm 底径 3.3cm	2mm以下の白色 粒含む	良	外 明黄褐(10YR7/6) 新 明黄褐(10YR7/6) 内 明黄褐(10YR7/6) 黒(10YR3.7/1)	脚部の み
第34図 100	3	D08JT	第5遺構面 直上砂層	土師器	ミニチュア 高杯	残存高 3.5cm 底径 6.3cm	1.5mm以下砂粒 含む	良	外 黄褐(2.5Y8/4) 黄灰(2.5Y4/1) 新 灰白(2.5Y8/1) 内 浅黄(2.5Y7/3)	脚部の み
第34図 101	3	D08OT	第5遺構面 直上砂層	土師器	罍	口径(15.0cm) 残存高 4.9cm	3mm以下の灰・ 黒・白色粒多量 に含む	良	外 浅黄(2.5Y8/4) 新 灰白(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y8/4)	
第34図 102	7	D08ML	第5遺構面 直上砂層	(注)式 土器	罍	口径(13.6cm) 残存高 3.5cm	5mm大の穴1つ と4mm以下の白 色粒多量に含む	良	外 灰褐(7.5YR4/2) 新 灰褐(7.5YR4-2) 内 灰黄褐(10YR5-2)	
第34図 103	3	D08PY	第5遺構面 直上砂層	土師器	罍	口径(10.7cm) 残存高 5.0cm	白色粗砂粒含む	良	外 にぶい黄(7.5YR7/3) 灰褐(7.5YR4-2) 新 明褐色(7.5YR7/2) 内 黄灰(2.5Y4/1)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No. 7

No.	区	地区	層位・遺物	種類	器種	口径 cm	高さ cm	胎土	焼成	色調	備考
第362回 104	3	D08FY	第5遺構面 灰上砂層	土師器	甕	口径(8.0cm) 残存高 5.0cm		1m以下白色砂 粒を含む	良	外 灰白(10YR6/4) 断 灰白(10YR6/4) 内 灰白(10YR6/4) に灰白(10YR6/4)	
第362回 105	4	D08VP	第5遺構面 444-OS	黒色 土器A	甕	口径(15.0cm) 器高 6.1cm 高台径(5.9cm)		5m次の灰色小 石、1m次の白・ 茶色砂粒を含む	良	外 暗灰(N3/0) 断 灰白(7.5YR6/4) に灰白(10YR7/3) 内 暗灰(N3/0)	
第362回 106	3	D10MF	第5遺構面 430-CZ	土師器	杯B	口径 13.9cm 器高 4.3cm 高台径 5.0cm		緻密	良	外 浅黄(5Y7/3) 断 灰白(7.5YR6/4) 内 浅黄(5Y7/3)	
第362回 107	3	D08PX	第5遺構面 ベース層	黒色 土器B	甕	口径(10.7cm) 器高 4.0cm 高台径(4.6cm)		緻密	良	外 黒(N2/0) 断 黒(N2/0) 内 黒(N2/0)	
第362回 108	3	D10OG	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A?	口径(11.8cm) 残存高 3.3cm		1m以下砂粒含 む	良	外 浅黄(5Y7/3) 断 灰白(7.5YR7/3) 内 浅黄(5Y7/3) 灰白(5Y7/2)、暗灰(7.5YR 5/1)に灰白(7.5YR7/3)	
第362回 109	2	D10HQ	第5遺構面 ベース層	土師器	甕	口径(8.1cm) 残存高 4.6cm		1m以下の砂粒 を含む	良	外 灰白(5YR/2) 断 オリーブ(5Y4/2) 内 灰白(5YR/2)	
第362回 110	1	D10AO	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(14.5cm) 残存高 3.5cm		白色砂粒含む	良	外 オリーブ黄(5Y6/3) 断 灰白(7.5YR6/4) 内 オリーブ黄(5Y6/3)	
第362回 111	1	D10CN	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径 14.4cm 残存高 3.9cm		3m以下の灰・ 茶・白色粒を含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 灰白(5YR6/4) 内 灰白(5Y7/2)	
第362回 112	1	D10BO	第5遺構面 ベース層	土師器	杯C	口径 14.0cm 残存高 3.6cm		1m以下の白色 粒を含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 灰白(5YR4/3) 内 灰白(5Y7/2)	
第362回 113	3	D10WF	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(10.9cm) 残存高 2.6cm		1.5m以下灰黒 色粒を含む	良	外 灰白(10YR7/3) 断 灰白(10YR7/3) 内 灰白(10YR7/3)	
第362回 114	1	D10FV	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(11.6cm) 残存高 3.4cm		4m次の白灰小 石1つと1m以 下の白色粒を含む	良	外 黄(5YR2/6) 断 灰白(7.5YR7/4) に灰白(7.5YR6/3) 内 灰白(7.5YR7/4) 黄(5YR2/6)	
第362回 115	3	D10VD	第5遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径(12.2cm) 残存高 3.3cm		1m以下の灰黄・ 白色粒を含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) に灰白(5YR5/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第362回 116	6	A06LB	第5遺構面 ベース層	緑胎 陶器	甕	残存高 3.9cm 高台径(8.3cm)		白色粒粒を含む	良	外 暗オリーブ灰(2.5GY3/1) 露胎 オリーブ灰(5GY6/1)	
第362回 117	3	D08PX	第5遺構面 ベース層	緑胎 陶器	甕	残存高 2.2cm 高台径(7.6cm)		白色磨砂を含む	良	外 暗オリーブ灰(5GY4/1) 露胎 緑灰(10GY6/1)	

第11表 土器観察表

() は複元値を示す

No. 8

№	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 寸法	胎土	焼成	色調	備考
第36区 118	4	D00QP	第5遺構面 ベース層	須恵部	杯蓋	口径(16.3cm) 残存高 1.2cm	1mm以下灰色粒 含む	良	外 灰白(N7/0) 断 灰白(10Y7/1) 内 赭(N2/0) 内 灰(N6/0)	
第36区 119	1	D10CM	第5遺構面 ベース層	土師部	壺	口径(10.9cm) 残存高 7.2cm	1mm以下の砂粒 含む	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 灰オリーブ(7.5Y6/3) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	
第36区 120	3	D16PC	第5遺構面 ベース層	土師部	壺	口径(7.5cm) 器高 8.5cm	白色粗砂含む	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 灰オリーブ(5Y6/4) 内 灰(10Y2/1) 内 灰オリーブ(5Y6/2) 内 灰(5Y6/4)	
第36区 121	1	D10GS	第5遺構面 ベース層	須恵部	瓶	残存高 7.7cm	1mm以下の白色 粒含む	良	外 灰(N5/0) 断 灰(N5/0) 内 灰(N5/0)	
第36区 122	7	D09LM	第5遺構面 ベース層	須恵部	壺	口径(51.2cm) 残存高 5.5cm	3mm以下の白色 砂粒含む	良	外 灰(N4/0) 断 灰(N4/0) 内 灰赤(5YR4/2) 内 灰(N2/0) 内 灰白(N6/0)灰(N4/0)	
第36区 123	3	D09PX	第5遺構面 ベース層	土師部	壺	口径(27.0cm) 残存高 7.1cm	3mm大の灰・白 色小石含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第36区 124	3	D10OG	第5遺構面 ベース層	土師部	壺	口径(12.7cm) 残存高 3.7cm	1mm以下の砂粒 含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰(2.5Y6/3) 内 灰赤(7.5YR6/3) 内 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰(7.5YR2/1) 内 灰(5YR6/2)	
第36区 125	7	D06NL D06MM	第5遺構面 ベース層	土師部	瓶		1.5mm以下の白 色粒含む	良	外 灰白(N7/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰白(N7/0)	破断
第36区 126	3	D09WT D09XT	第5遺構面 ベース層	弥生土器	壺	口径 16.0cm 器高 27.4cm 高台径 5.1cm	緻密 一部スチ付着	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第41区 144	2	D18SO	第6遺構面 118-OR	須恵部	杯B	口径 15.8cm 器高 5.3cm 高台径 11.7cm	緻密	良	外 灰(N6/0) 断 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	
第41区 145	2	D18SP	第6遺構面 118-OR	須恵部	杯B	口径(15.3cm) 残存高 4.4cm 高台径(10.1cm)	3mm程度の砂粒 含む	良	外 灰(10Y5/1) 断 灰(7.5Y6/1) 内 灰(5Y5/1)	
第41区 146	1	D16LN	第6遺構面 118-OR	須恵部	杯B	口径 15.4cm 残存高 4.3cm 高台径 8.8cm	緻密	良	外 灰(N6/0) 断 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	
第41区 147	2	D10VS	第6遺構面 118-OR	須恵部	杯B	口径(14.1cm) 残存高 4.4cm 高台径(9.3cm)	5mm以下の白 石3つと1mm以 下の白色粒含む	良	外 灰(N5/0) 断 灰(5Y7/1) 内 灰(5Y7/1)	
第41区 148	2	D10VS	第6遺構面 118-OR	須恵部	杯A	口径 13.3cm 器高 3.8cm	緻密	良	外 陶灰(10YR4/1) 断 陶灰(10YR4/1) 内 陶灰(10YR4/1)	

第11表 土器観察表

()は復元値を示す

No.9

No.	区	地区	層位・遺物	種類	器種	出量 g	土質	焼成	色調	備考
第41区 149	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯A	口径 10.2cm 器高 3.3cm	1~2mm程度の白 色砂粒少量含む	良	外 灰(N4/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰(NS/0)	
第41区 150	1	D10PN	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯	口径 9.7cm 器高 3.1cm	1~3mm程度の 白色砂粒含む	良	外 灰(NS/0) 断 灰(NS/0) 内 灰(NS/0)	へう記 号有
第41区 151	1	D10PM	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯	口径 12.0cm 器高 4.1cm	1~2mm大の白 色砂粒含む	良	外 灰(N6/0) 断 灰(N6/0) 内 灰(N4/0)	
第41区 152	2	D10RP	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯	口径(12.5cm) 残存高 4.6cm	1~3mm程度の 白色砂粒含む	良	外 灰(NS/0) 断 灰白(N7/0) 内 灰(N6/0)	
第41区 153	2	D10RS	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯蓋	口径 15.0cm 器高 5.2cm	1~2mm程度の 白色砂粒含む	良	外 青灰(10BGS/1) 断 緑(2.5Y6/6) 内 黄灰(2.5Y5/1)	へう記 号有
第41区 154	2	D10RP	第6遺構面 118-OR	須恵器	杯蓋	口径 14.5cm 器高 4.9cm	1mm程度の砂粒 含む	良	外 灰(N6/0) 断 灰白(N7/0) 内 青灰(5P96/1)	
第41区 155	2	D10VT	第6遺構面 118-OR	須恵器	壺	口径 9.8cm 器高 8.3cm 高台径 7.4cm	1~2mm程度の 白色砂粒含む	良	外 灰白(N7/0) 断 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	
第41区 156	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	須恵器	壺	口径(10.6cm) 器高 4.4cm	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白(5Y7/1) 断 灰白(5Y8/1) 内 灰白(5Y8/1)	
第42区 157	1	D10JN	第9遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径 13.5cm 器高 4.2cm	黄 色	良	外 にぶい-緑(7.5YR7/4) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第42区 158	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径 13.4cm 器高 3.6cm	2~3mm程度の 砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 にぶい-緑(7.5YR7/3) 内 にぶい-黄緑(10YR7/3)	
第42区 159	1	D10LN	第6遺構面 118-OR	土師器	皿	口径 13.5cm 器高 2.5cm	黄 色	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 黄(5Y8/6) 内 赤黄(10R6/6)	
第42区 160	5~6	D10MP	第9遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径(12.9cm) 器高 3.5cm	3mm以下の白色 粒含む	良	外 にぶい-緑(7.5YR7/4) 断 灰黄緑(7.5YR6/6) 内 にぶい-緑(10YR7/2)	
第42区 161	2	D10VT	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 14.1cm 器高 5.3cm	黄 色	良	外 明オリーブ灰(2.5GY7/1) 断 黄(2.5YR6/6) 内 灰白(5Y7/2)	底筋本 葉痕
第42区 162	2	D10VT	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 12.6cm 器高 3.3cm	黄 色	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 にぶい-緑(7.5YR6/3) 内 灰黄(2.5Y7/2)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.10

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	容量 ml	胎土	焼成	色 質	備 考
第422回 163	2	D10WO	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(12.7cm) 残存高 2.8cm	緻密	良	外 じぶい黄緑(10YR6/3) 断 淡黄(2.5Y7/2) 内 じぶい黄緑(10YR6/3)	
第422回 164	1	D10GN	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 12.2cm 器高 3.2cm	緻密	良	外 淡黄(2.5Y7/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 黄緑(2.5Y5/3)	
第422回 165	5-6	D10NQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(12.4cm) 残存高 3.7cm	密 2mm大の灰色小 石含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) 基層(2.5Y3/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第422回 166	1	D10GN	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 13.4cm 器高 3.3cm	緻密	良	外 じぶい黄(2.5Y6/3) 断 じぶい黄(2.5Y6/3) 内 じぶい黄(2.5Y6/3)	
第422回 167	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 11.5cm 器高 3.2cm	緻密	良	外 灰白(5Y7/2) 断 じぶい黄(7.5YR5/4) 内 淡黄(2.5Y7/3)	
第422回 168	5-6	D10NQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 12.2cm 器高 3.4cm	緻密	良	外 じぶい黄緑(10YR6/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 じぶい黄緑(10YR7/3)	
第422回 169	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 12.0cm 器高 3.5cm	1mm以下の白色 砂粒含む	良	外 灰白(7.5Y7/2) 断 粉(7.5YR4/6) 内 灰オリーブ(7.5YR/2)	
第422回 170	5-6	D10NQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 13.4cm 器高 3.9cm	緻密	良	外 じぶい黄(2.5Y6/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 じぶい黄緑(10YR5/2)	底部木 炭屑
第422回 171	5-6	D10NQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(14.1cm) 残存高 3.8cm	緻密	良	外 じぶい黄(5YR6/4) 断 じぶい黄(5YR6/4) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第422回 172	1	D10FN	第6遺構面 118-OR	土師器	碗	口径(11.5cm) 器高 4.2cm	緻密	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第422回 173	1	D10GN	第6遺構面 118-OR	土師器	碗	口径(12.5cm) 残存高 4.2cm	2mm程度の砂粒 含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 じぶい赤褐(5YR5/4) 内 灰白(5Y7/2)	
第422回 174	2	D10WS	第6遺構面 118-OR	土師器	碗	口径(12.7cm) 残存高 4.4cm	緻密	良	外 じぶい黄緑(10YR7/4) 断 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(2.5Y8/2)	
第422回 175	5-5	D15BQ	第6遺構面 118-OR	土師器	碗	口径 12.4cm 器高 4.0cm	緻密	良	外 灰白(5Y7/2) 断 黄(5YR5/6) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第422回 176	1	D10EN	第6遺構面 118-OR	土師器	碗	口径 12.9cm 器高 4.0cm	緻密	良	外 じぶい黄緑(10YR7/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 じぶい黄緑(10YR7/4)	

第11表 土器観察表

()は復元値を示す

No.11

№	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 寸法	胎土	状況	色 調	備 考
第42回 177	1	D10HM	第6遺構面 118-OR	土師器	甗	口径(12.1cm) 残存高 3.4cm	4~5mmの小石 含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(2.5Y7/4) 灰白(2.5Y8/1) 灰白(2.5Y7/4)
第42回 178	2	D10VS	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(17.0cm) 器高 4.9cm	1mm以下の白・ 灰色小石含む	良	外 内 外 内 外 内	灰黄(2.5Y7/2) 灰白(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2) 灰黄(2.5Y7/2) 灰白(2.5Y7/2) オリブ黒(10Y3/1)
第42回 179	2	D10US	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 16.8cm 器高 4.9cm	3mm以下の白色 粒少量含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(2.5Y7/3) 灰白(2.5Y7/1) 灰黄(10YR8/3)
第42回 180	2	D10RN	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(16.8cm) 残存高 4.2cm	密 1mm以下の白・灰 色砂粒含む	良	外 内 外 内 外 内	灰黄(7.5YR6/4) 灰黄(10YR8/2) 灰白(7.5YR6/4)
第42回 181	5-6	D10MQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径(19.4cm) 器高 5.0cm	密 3mm以下の白色小 石含む	良	外 内 外 内 外 内	明赤帯(2.5YR5/6) 明赤帯(2.5YR5/6) 明赤帯(2.5YR5/6)
第42回 182	1	D10HM	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 17.6cm 器高 3.7cm	密 密	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR6/4) 灰白(7.5YR7/4) 灰白(7.5YR6/4)
第42回 183	5-6	D10OQ	第6遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径(20.0cm) 残存高 3.3cm	密 密	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR6/3) 灰白(7.5YR7/3) 灰白(7.5YR7/3)
第42回 184	2	D10WO	第6遺構面 118-OR	土師器	甗	口径 14.4cm 残存高 3.8cm	4mm以下の小石1 つと3mm以下の 白色粒含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2)
第42回 185	2	D10RN	第6遺構面 118-OR	土師器	甗	口径(21.2cm) 器高 3.2cm	密 密	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR6/3) 灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR5/2)
第42回 186	2	D10KU	第6遺構面 118-OR	土師器	甗	口径(20.3cm) 残存高 2.6cm	1mm以下の白色砂 粒含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2) オリブ黒(10Y3/1)
第42回 187	2	D10VS	第6遺構面 118-OR	土師器	甗	口径(21.0cm) 残存高 3.1cm	密 密	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2)
第42回 188	2	D10VS	第6遺構面 118-OR	土師器	ミゾア 高杯	口径 6.3cm 器高 5.4cm 底径 4.9cm	1mm以下の白・灰 色砂粒含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR7/2) 灰(5YR6/6) 灰(2.5Y4/1) 灰白(7.5YR7/2) 灰白(7.5YR7/2) 灰(5YR6/6)
第42回 189	5-6	D10OQ	第6遺構面 118-OR	土師器	ミゾア 高杯	口径 6.2cm 器高 4.1cm 底径 2.8cm	1mm以下の白色 粒含む	良	外 内 外 内 外 内	灰白(7.5YR6/3) 灰白(7.5YR7/2) 灰(5Y5/1) 灰白(7.5YR7/3)

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.12

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	容量 g	胎土	焼成	色調	備考	
第42区 190	2	D10TP	第6遺構面 118-OR	土師器	ミニチュア 壺	口径 8.1cm 器高 6.3cm	織害	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰白(2.5Y7/3)		
第42区 191	5-5	D15BQ	第6遺構面 118-OR	土師器	土高 瓶大長 4.5cm		織害	良	外 灰白・黄緑(10YR7/3) 断 黄灰(5Y5/1) 内 灰白(5Y7/1)		
第42区 192	2	D10XT	第6遺構面 118-OR	土師器	高杯	口径(16.4cm) 残存高 5.0cm	2mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白・黄緑(10YR7/4) 断 灰白・黄緑(10YR7/4) 内 灰白・緑(7.5YR7/3)		
第42区 193	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	土師器	高杯	残存高 6.5cm 口径 8.1cm	2mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白(2.5Y8/1) 断 灰白(2.5Y8/1) 内 灰白(2.5Y8/1)	脚部の み	
第43区 194	2	D10WP	第6遺構面 118-OR	土師器	杯C	口径 13.1cm 器高 3.8cm	2~3mmの砂粒 を含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y7/3) 内 灰白・緑(2.5Y6/3)	墨書土 部「田」	
第43区 195	1	D10EM	第6遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径(14.4cm) 残存高 3.6cm	1mm以下の白色 砂粒	良	外 緑灰(N3-0) 断 緑灰(N3-0) 内 灰白・黄緑(10YR7/3)	墨書土 部「吉」	
第43区 196	1	D10GO	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径(16.0cm) 残存高 12.5cm	4mm大の小石1 つと2.5mm以下 の白色粒を含む	良	外 灰白・黄緑(10YR7/3) 断 緑灰(N3-0) 内 灰白・黄緑(10YR7/3)	人面墨 書土部	
第43区 197	2	D10RN	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径 12.6cm 残存高 9.6cm	2mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 灰白・黄緑(10YR7/2) 内 灰黄(2.5Y7/3)	人面墨 書土部	
第43区 198	2	D10RN	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径(14.6cm) 残存高 8.4cm	1~3mm大の白 色小石を含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 灰白・赤褐(5YR5/3) 内 灰黄(2.5Y7/3)		
第43区 199	2	D10SP	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径(9.8cm) 残存高 4.9cm	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白(2.5Y7/1) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		
第43区 200	1	D10HO	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径(15.9cm) 残存高 7.6cm		織害	良	外 灰白・緑(7.5YR6/4) 断 灰白・黄緑(10YR7/3) 内 灰白・緑(7.5YR7/3)	
第43区 201	5-6	D10NQ	第6遺構面 118-OR	土師器	壺	口径 25.6cm 残存高 23.6cm	5mm大の白色小 石及び1~2mm 大の白・灰色小 石多量を含む	良	外 灰白・黄(2.5Y6/3) 断 灰白・赤褐(5YR5/4) 内 灰(5Y2/1)		
第43区 202	2	D10XT	第6遺構面 118-OR	土師器	鉢	口径(22.8cm) 残存高 11.4cm	1~2mm大の白・ 灰・茶色小石含 む	不良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)		
第43区 203	2	D10CO	第6遺構面 118-OR	土師器	鉢	口径(27.3cm) 残存高 19.6cm		織害	良	外 灰白・赤褐(5YR4/4) 断 明赤褐(5YR5-6)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.13

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 目	胎土	焼成	色調	備考
第44区 204	2	D190O	第6遺構面 118-OR	土師器	鉢	口径(25.9cm) 残存高 11.6cm	1mm次の白色砂粒	良	外 緑(7.5YR6/6) 断 浅黄(2.5Y7/3) 内 緑(7.5YR6/6)	
第44区 205	3	D190L	第6遺構面 118-OR	黒色土器A	碗	口径(13.6cm) 残存高 3.5cm	1mm以下の白・反色砂粒含む	良	外 黒(N2/0) 断 灰白(5Y7/2) 内 灰白(5Y7/2) 底 黒(N2/0)	
第44区 206	3	D190H	第6遺構面 118-OR	黒色土器A	碗	口径(12.0cm) 残存高 3.7cm	1mm以下の白色砂粒含む	良	外 暗灰(N3/0) 断 暗灰(N2/0) 内 灰白(5Y7/2) 底 暗灰(N3/0)	
第44区 207	3	D190G	第6遺構面 118-OR	土師器	杯皿	口径 14.6cm 器高 4.7cm 高台径 4.0cm	縹色	良	外 浅黄(2.5Y7/3) 断 浅黄(2.5Y6/2) 内 浅黄(2.5Y7/3)	
第44区 208	3	D190F	第6遺構面 118-OR	土師器	杯皿	口径(12.6cm) 器高 3.4cm 高台径(6.0cm)	3.5mm以下の小石2つ、2.5mm以下の褐色粒1つ、2mm以下の白色粒少量含む	良	外 にぶい黄(5YR7/3) 断 淡赤橙(2.5YR7/3) 内 灰白(10YR7/1) 底 淡赤橙(2.5YR7/3)	
第44区 209	3	D190P	第6遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径 12.8cm 器高 3.6cm	1mm程度の砂粒含む	良	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 断 にぶい黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	
第44区 210	3	D190M	第6遺構面 118-OR	土師器	杯A	口径(13.2cm) 器高 3.7cm	1~2mm程度の白色砂粒少量含む	良	外 浅黄(2.5Y6/2) 断 にぶい黄(10YR7/2) 内 浅黄(2.5Y7/2)	
第44区 211	3	D190I	第6遺構面 118-OR	土師器	皿	口径(13.9cm) 残存高 2.8cm	縹色	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 灰白(5Y7/2) 内 浅黄(5Y7/3)	
第44区 212	3	D190K	第6遺構面 118-OR	土師器	皿	口径(13.8cm) 残存高 2.0cm	3mmの白色粒を含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 にぶい黄(7.5YR5/4) 内 灰白(5Y7/2)	
第44区 213	3	D190N	第6遺構面 118-OR	土師器	皿	口径(12.4cm) 残存高 2.5cm	縹色	良	外 にぶい黄(7.5YR5/3) 断 暗灰(7.5YR7/2) 内 暗灰(5YR6/1)	
第44区 214	3	D190J	第6遺構面 118-OR	土師器	皿	口径 10.1cm 器高 2.4cm	1~2mm程度の砂粒含む	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 にぶい黄(7.5YR6/3) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	
第44区 215	3	D190L	第6遺構面 118-OR	土師器	甕	口径(16.1cm) 残存高 6.9cm	4mm次の小石1つと3mm以下の白色粒含む	良	外 浅黄(2.5Y7/2) 断 浅黄(2.5Y7/2) 内 浅黄(2.5Y7/2)	
第44区 216	3	D190Q	第6遺構面 118-OR	土師器	鉢	口径(26.0cm) 残存高 4.5cm	1mm以下の白色砂粒少量含む	良	外 浅黄(10YR6/2) 断 (緑)(N1.5/0) 内 浅黄(10YR6/2) 底 黒(緑)(N1.5/0)	
第44区 217	3	D190Y	第6遺構面 ベース層	土師器	杯A	口径 14.4cm 残存高 4.2cm	1mm以下の白色砂粒含む	良	外 にぶい黄(10YR6/3) 断 にぶい黄(10YR6/3) 内 にぶい黄(10YR6/3)	

第11表 土器観察表

()は復元値を示す

No.14

No.	区	地区	層位・遺物	種類	器種	法量 口径 底径 残存高	胎土	構成	色調	備考
第45回 218	3	D097W	第6遺構面 ベース層	土師器	杯A?	口径(15.9cm) 残存高 3.3cm	2~3mm程度の 砂粒を含む	良	外 灰ナリブ(5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第45回 219	4	D097L	第6遺構面 ベース層	土師器	盃	口径(14.0cm) 残存高 2.0cm	1mm以下の白色砂 粒を含む	良	外 明黄緑(10YR2/6) 断 灰黄(2.5Y7/3) 新 黄緑(2.5Y7/3) 内 灰黄(2.5Y7/3)	
第45回 220	4	D097N	第6遺構面 ベース層	土師器	盃	口径(10.2cm) 残存高 3.0cm	細密	良	外 灰白(10YR6/3) 断 灰白(10YR6/3) 内 灰赤(2.5YR6/2) 灰白(10YR7/2)	
第45回 221	3	D10M7	第6遺構面 ベース層	須恵器	杯B	残存高 3.0cm 高台径(9.2cm)	細密	良	外 灰(NS/0) 断 灰(NS/0) 内 灰(NS/0)	
第45回 222	3	D097W	第6遺構面 ベース層	須恵器	壺	口径(6.6cm) 残存高 8.0cm	3mm以下の白色 粒と5mm以下の小 石1つを含む	良	外 灰(5Y4/1) 断 赤灰(10R6/1) 内 灰(NS/0)	
第45回 223	3	D097Y D098U	第6遺構面 ベース層	土師器	壺	口径(19.3cm) 残存高 14.0cm	2mm程度の白色 砂粒を含む	良	外 灰黄(5Y7/3) 断 灰黄(5Y7/3) 内 灰黄(5Y7/3)	
第45回 224	3	D100F	第6遺構面 ベース層	土師器	ミニチュア 高杯	口径 6.3cm 残存高 4.3cm	2.5mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第45回 225	3	D100P	第6遺構面 ベース層	土師器	ミニチュア 高杯	口径(7.3cm) 器高 4.6cm 底径 3.7cm	1~2mm程度の 白色砂粒を少量 含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 明赤褐(5YR5/6) 内 明褐(7.5YR7/2)	
第45回 226	5-4	D13RS	第6遺構面 ベース層	土師器	製造 土師	口径(7.0cm) 残存高 4.7cm	2mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰白(10YR6/1) 断 灰白(10YR6/1) 内 灰白(10YR6/1)	
第57回 282	3	D10NC	第7遺構面 ベース層	須恵器	杯器	口径(13.3cm) 残存高 4.0cm	3mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰(5Y6/1) 断 灰(5Y6/1) 内 灰(5Y6/1)	
第57回 283	3	D10LJ	第7遺構面 ベース層	須恵器	杯器	口径(11.2cm) 残存高 3.9cm	2mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰(5Y4/1) 断 灰(N6/0) 内 灰(5Y4/1)	
第57回 284	7	D06AN	第7遺構面 ベース層	須恵器	杯器	口径(12.2cm) 残存高 5.2cm	3mm以下の白色 粒少量を含む	良	外 灰(N6/0) 断 灰(N6/0) 内 灰白(N7/0)	
第57回 285	7	D09LL	第7遺構面 ベース層	須恵器	杯器	口径(12.0cm) 残存高 4.1cm	3mm以下の白色 粒少量を含む	良	外 灰(N6/0) 断 赤灰(10R6/1) 内 青灰(5PB6/1)	
第57回 286	3	D06SW	第7遺構面 ベース層	須恵器	杯	口径 11.0cm 器高 3.8cm	2mm程度の砂粒 を含む	良	外 灰(N6/0) 断 灰台(7.5Y7/1) 内 灰(5Y6/1)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.15

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	出土 位置	出土 状況	土質	焼成	色調	備考
第57区 287	3	D08X	第7遺構面 ベース層	灰土器	杯A	口径12.7cm 器高4.9cm	縦密	良	外 灰(N4/0) 断 灰(N5/0) 内 灰(N6/0)		
第57区 288	3	D08A	第7遺構面 ベース層	土器	碗	口径(11.9cm) 残存高3.1cm	縦密	良	外 灰白(SY7/1) 断 灰(SY6/1) 内 灰白(SY7/1)		
第57区 289	3-4	D08FM	第7遺構面 ベース層	土器	碗	口径9.5cm 器高3.6cm	縦密	良	外 灰白(2.5Y8/1) 断 にぶい-黄(5YR6/4) 内 灰白(2.5Y8/1)		
第57区 290	3	D08MD	第7遺構面 ベース層	土器	高杯	口径17.4cm 残存高3.5cm	1mm程度の砂粒を含む	良	外 灰白(2.5Y8/2) 断 にぶい-赤(10R6/4) 内 灰白(2.5Y8/1)		
第57区 291	3	D08KA	第7遺構面 ベース層	土器	壺	残存高7.0cm	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰白(2.5Y7/1) 断 灰白(10Y8/1) 内 灰白(10Y8/1)	表面部 泥を積 す	
第57区 292	3	D08NP	第7遺構面 ベース層	土器	小器丸底 壺	口径(8.1cm) 残存高8.3cm	縦密	良	外 灰黄(10YR5/2) 断 灰(5YR6/2) 内 灰(7.5YR5/2)		
第57区 293	3	D08JX	第7遺構面 ベース層	土器	壺	口径(10.1cm) 残存高5.0cm	3mm大の白色粒 1つと1mm以下 の白色粒少量に 含む	良	外 にぶい-黄(10YR6/3) 断 にぶい-黄(10YR7/2) 黄灰(3.5Y8/1) 内 にぶい-黄(10YR7/2)		
第57区 294	4	D09GK D09JL	第7遺構面 ベース層	土器	壺	口径(13.3cm) 残存高5.1cm	2mm以下の白色 粒少量を含む	良	外 にぶい-黄(7.5YR7/4) 断 にぶい-黄(10YR7/2) 灰白(10YR7/1) 内 にぶい-黄(7.5YR7/4)		
第57区 295	3	D10K3	第7遺構面 ベース層	土器	壺	口径(16.4cm) 残存高4.8cm	1mm大の白・灰 色小石含む	良	外 黒(5Y2/1) 断 灰白(10YR7/1) 内 黒(10YR3/2)		
第57区 296	3	D10TA	第7遺構面 ベース層	土器	壺	口径(14.9cm) 残存高4.3cm	1mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰黄(2.5Y8/3) 断 灰黄(2.5Y8/4) 灰(5Y4/1) 内 灰黄(2.5Y8/4)		
第60区 334	4	D09RM	第7遺構面 ベース層	須恵器	直口壺	口径(20.3cm) 残存高5.4cm	縦密 1mm程度の白色 砂粒を少量含む	良	外 灰(N6/0) 断 灰(N6/0) 内 明青灰(10BG7/1)		
第60区 335	3	D10NC	第8遺構面 120-C5	土器	高杯	口径(15.2cm) 残存高5.8cm	1~3mm大の白・ 灰色砂粒含む	良	外 にぶい-黄(10YR7/3) にぶい-黄(7.5YR7/4) にぶい-黄(7.5YR6/4) 断 にぶい-黄(10YR7/3) 黄(5YR6/4) 内 にぶい-黄(10YR7/3) 黒(2.5Y3/1)	杯部のみ	
第60区 336	3	D10CC	第8遺構面 120-C5	土器	高杯	口径15.3cm 残存高5.5cm	3mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	杯部のみ	
第60区 337	3	D10NC	第8遺構面 120-C5	土器	高杯	口径(16.0cm) 残存高4.7cm	2mm、6mm大の 白色小石及び1mm 以下の白色砂 粒含む	良	外 にぶい-黄(5YR6/4) 明黄灰(7.5YR7/2) 断 明黄灰(7.5YR7/2) 内 にぶい-黄(5YR6/4) 明黄灰(7.5YR7/2)	杯部のみ	

第11表 土器観察表

() は度数を示す

No.16

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	数量 個数	貯土	焼成	色調	備考
第662回 338	3	D100C	第8遺構面 126-OS	土師器	高杯	口径(13.0cm) 残存高 5.2cm	緻密	良	外 灰白(2.5YR/1) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 灰白(2.5Y7/1)	
第662回 339	3	D100C	第8遺構面 126-OS	土師器	高杯	口径(12.6cm) 残存高 3.9cm	緻密	良	外 にぶい黄緑(10YR7/3) 断 灰白(10YR8/2) 内 灰黄緑(10YR5/2)	杯部の み
第662回 340	3	D100PB	第8遺構面 126-OS	土師器	高杯	口径(12.8cm) 残存高 4.7cm	4mm以下の白色 粒少量含む	良	外 灰黄緑(10YR6/2) 断 にぶい黄緑(10YR7/2) 内 灰黄緑(10YR6/2)	杯部の み
第662回 341	3	D10MB	第8遺構面 126-OS	土師器	高杯	口径 13.2cm 残存高 4.8cm	1~2mm程度の 砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰白(5Y7/2) 内 灰白(5Y7/2)	杯部の み
第662回 342	3	D10PC	第8遺構面 126-OS	土師器	高杯	口径(13.4cm) 残存高 6.4cm	1mm以下の白・ 灰・茶色小石含む	外 灰黄緑(10YR8/2) 断 灰黄(10YR6/2) 内 灰黄(10YR2/2)	杯部の み	
第662回 343	3	D10MC	第8遺構面 126-OS	土師器	小型 丸底壺	残存高 6.9cm	3mm大の白色小 石及び1mm以下 の茶色小石含む	外 灰黄(2.5Y4/1) 断 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y4/1)		
第662回 344	3	D10MC	第8遺構面 126-OS	土師器	小型 丸底壺	口径 8.2cm 器高 10.7cm	1mm程度の白色 粒少量含む	良	外 にぶい黄緑(10YR7/2) 断 灰白(10YR7/1) 内 灰白(10YR8/2)	体部に 黒染有
第662回 345	3	D10NC	第8遺構面 126-OS	土師器	小型 丸底壺	口径 7.2cm 器高 7.7cm	1~2mm程度の 砂粒含む	良	外 にぶい黄(2.5Y6/2) 断 にぶい黄緑(10YR7/3) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第662回 346	3	D06IX	第8遺構面 126-OS	土師器	二重 口縁壺	頸部最大径 (18.0cm) 残存高 4.7cm	2~4mmの赤茶 色砂粒含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第662回 347	3	D10NC	第8遺構面 126-OS	土師器	壺	口径(15.2cm)	2mm大の灰・白 色小石含む	外 黒褐(10YR3/1) 断 にぶい黄緑(10YR7/2) 内 灰黄(10YR3/1) にぶい黄(5YR6/4) 黒褐(10YR3/1) にぶい赤褐(7.5R4/3)		
第662回 348	3	D10NC	第8遺構面 126-OS	弥生 土器	壺	口径(17.3cm) 底径(5.0cm)	4mm以下の白色 粒少量に含む	外 褐灰(N8/0) 断 にぶい黄緑(10YR7/2) 内 灰黄緑(10YR6/2)		
第67回 349	3	D10MJ	第8遺構面 127-OS	土師器	高杯	口径(20.6cm) 残存高 3.5cm	緻密	良	外 緑(5YR7/6) 断 にぶい黄(5YR7/4) 内 にぶい黄(7.5YR7/3) にぶい黄(5YR7/4)	杯部の み
第67回 350	3	D10LH	第8遺構面 127-OS	土師器	高杯	口径 20.0cm 残存高 8.1cm	緻密	良	外 灰黄緑(10YR8/4) 断 灰黄(5YR5/4) 内 灰白(N7/0) にぶい黄緑(10YR7/2)	杯部の み
第67回 351	3	D10MJ	第8遺構面 127-OS	弥生 土器	壺	口径(12.6cm) 底径 3.2cm	2mm程度の白色 砂粒含む	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 灰(5Y6/1) 内 灰オリーブ(5Y6/2)		

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.17

編 号	区 区	地 区	部位・遺物	種 類	器 種	出 土 量 g	胎 土	焼成	色 調	備 考
第67区 352	3	D10MJ	第9遺構面 127-OS	弥生 土器	甕	口 径(15.2cm) 残存高 13.0cm	1~3mm大の白色 砂粒及び4mm 大の白・茶色小 石含む	良	外 灰黄(2.5Y7/2) 黄(5Y2/1) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第67区 353	3	D10MJ	第9遺構面 127-OS	土師器	甕	口 径(17.2cm) 残存高 6.0cm	黄 泥	良	外 にぶい黄緑(10YR7/2) 断 灰白(10YR8/1) 内 灰白(10YR8/1)	
第67区 354	3	D10LJ	第9遺構面 127-OS	弥生 土器	甕	残存高 5.3cm 底 径(3.9cm)	7mm大の灰色小 石、1mm大の白色 砂粒含む	良	外 にぶい黄緑(7.5YR7/4) にぶい黄緑(10YR7/2) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 灰黄(2.5Y7/2) 灰白(2.5Y7/1) 内 灰白(2.5Y7/1)	
第67区 355	5-3	D15EM	第8遺構面 274-OS	縄文 土器	深鉢	残存高 11.1cm	1~4mm大の砂 粒を含む	良	外 暗灰黄(2.5Y5/2) 断 黄灰(2.5Y5/1) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	
第68区 356	3	D10DK	第9遺構面 ベース層	弥生 土器	鉢	口 径(42.4cm) 残存高 11.8cm	2~3mm大の黒色 小石及び1~ 2mm大の黒・茶・ 灰色小石含む	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 灰オリーブ(5Y6/2) 断 明赤褐(2.5YR5/6) 灰(5Y5/1) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	
第68区 357	3	D10JE	第9遺構面 ベース層	弥生 土器	ヒツブア 高杯	口 径 3.9cm 器 高 3.3cm	2~3mmの砂粒 を含む	良	外 灰黄(5Y7/3) 断 灰オリーブ(5Y7/2) 内 灰黄(5Y7/3)	
第94区 396	7	D09LL	第9遺構面 278-OS	土師器	二重 口縁甕	口 径(33.9cm) 残存高 9.9cm	5mm以下の白色 粒を含む	良	外 灰黄(2.5Y7/3) 断 灰黄(2.5Y7/3) 内 灰黄(2.5Y8/3)	
第94区 397	4	D09PK	第9遺構面 278-OS	土師器	二重 口縁甕	口 径 25.4cm 残存高 7.4cm	2~5mm程度の 白色砂粒を含む	断	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰白(5Y7/2) 内 灰(5Y4/1)	
第94区 398	4	D09QK D09QL	第9遺構面 278-OS	土師器	甕	口 径 15.5cm 残存高 11.8cm	1~3mm程度の 白色砂粒を含む。 5mm程度の白色 小石を少量含む	良	外 にぶい黄緑(10YR7/2) 断 にぶい黄緑(10YR7/2) 内 にぶい黄緑(10YR7/2)	
第94区 399	4	D09OK	第9遺構面 278-OS	土師器	甕	口 径(16.6cm) 残存高 16.5cm	4mm大の白色小 石及び1~2mm 大の白・灰色砂 粒を含む	外 灰黄(2.5Y6/2) 黒(5Y2/1) 断 灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)		
第94区 400	4	D09PK D09PL	第9遺構面 278-OS	土師器	甕	口 径(14.0cm) 残存高15.1cm	1~3mm大の灰・ 白色小石多量に 含む	良	外 黒(N1.5/0) 灰白(2.5Y8/2) 断 灰白(10YR8/1) 黒(N1.5/0) 内 灰沖(10YR8/1) 黒(N1.5/0)	
第94区 401	4	D09OK	第9遺構面 278-OS	土師器	甕	口 径(16.4cm) 残存高 5.9cm	1mm以下の砂粒 を含む	外 灰(N4/0) 断 灰黄(2.5Y6/2) 灰黄(2.5Y7/3) 灰黄(2.5Y6/2) 内 黄灰(2.5Y6/1) 黄灰(2.5Y6/1)		
第94区 402	4	D09PK	第9遺構面 278-OS	土師器	甕	口 径 12.5cm 残存高 2.6cm	1~2mm程度の 白色砂粒を含む	外 にぶい黄緑(10YR7/2) 断 にぶい黄緑(10YR7/2) 内 にぶい黄緑(10YR7/2)		
第94区 403	7	D09LL	第9遺構面 278-OS	土師器	小型丸底 甕	口 径 11.4cm 残存高 8.0cm	3mm以下の白色 粒を含む	外 灰白(10YR8/2) 断 にぶい黄(5YR6/3) 内 黄黄(5Y8/3)		

第11表 土器観察表

()は復元値を示す

No.18

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	容量 cm ³	胎土	焼成	色 調	備考
第94図 404	5-4	D15FS	第9遺構面 270-OS	縄紋 土器	深鉢	口径(31.6cm) 残存高 43.2cm 底径 9.8cm	3-5mm白・灰色 小石及び3mm 以下の白・灰茶 色砂粒多量に含 む	良 断 内	灰白(2.5Y7/1) 黒(10Y2/1) —— 灰白(2.5Y7/1) 黒(10Y2/1)	
第95図 405	5-2	D14GY	第9遺構面 394-OO	弥生 土器	壺	口径(17.6cm) 底径 3.2cm	4mm大の白色小 石及び1-2mm 大の白色砂粒多 量に含む	良 断 内	緑(5YR6/5) 灰白(2.5Y7/1) こぶい・黄緑(7.5YR7/4) 黄緑(7.5YR4/1) こぶい・黄(7.5YR7/4)	
第96図 406	5-2	D15EB	第9遺構面 359-OO	土師器	ミニチュア 無蓋壺	口径 3.0cm 器高 3.8cm	——	良	黄灰(2.5Y6/1) 黄灰(2.5Y6/1) 黄灰(2.5Y6/1)	
第95図 407	5-2	D14CX	第9遺構面 411-OO	弥生 土器	壺	残存高 4.7cm 底径 3.8cm	1-2mm大の灰・ 白色砂粒含む	良 断 内	暗灰(N8/0) 灰青(2.5Y7/2) 灰青(2.5Y7/2) 灰青(2.5Y7/2)	
第95図 408	5-2	D14EY	第9遺構面 357-OO	弥生 土器	壺	口径 12.3cm 器高 25.5cm 底径 4.9cm	5mm大の白色小 石及び1-3mm 大の白・茶・灰 色砂粒含む	良 断 内	残青(2.5Y7/4)黒(7.5Y2/1) 灰黄緑(10YR4/2) こぶい・赤黒(5YR4/4) こぶい・黄緑(10YR6/3) 黒(7.5Y2/1) こぶい・黄緑(10YR6/3) 黒(7.5Y2/1)	
第95図 409	4	D09XP	第9遺構面 202-OO	弥生 土器	壺	口径(13.8cm) 残存高 9.8cm	1-2mm程度の 白色砂粒含む	良 断 内	こぶい・黄緑(7.5YR7/4) 灰白(7.5YR4/2) こぶい・黄緑(7.5YR7/3)	
第95図 410	4	D09TL	第9遺構面 238-OO	弥生 土器	壺	口径(20.6cm) 残存高 14.3cm	2-3mm大の白 色小石多量に含 む	良 断 内	灰緑(7.5YR4/2) こぶい・黄緑(10YR7/3) こぶい・黄緑(10YR7/3) 内 灰黒(10YR5/1)	
第96図 411	2	D10ST	第9遺構面 140-OP	須恵器	杯A	口径 12.0cm 器高 3.2cm	2-4mm程度の 白色砂粒含む	良 断 内	灰(N6/0) 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	
第96図 412	1	D10EV	第9遺構面 288-OO	須恵器	杯B	口径(14.0cm) 残存高 3.3cm	1mm以下の白色 粒含む	良 断 内	灰(N6/0) 灰白(N7/0) 内 灰(N5/0)	
第96図 413	1	D10RY	第9遺構面 286-OO	須恵器	壺	口径(16.4cm) 残存高 3.8cm	器 1mm以下の白色 粒少量含む	良 断 内	灰(N6/0) 灰(N6/0) 内 灰(N6/0)	
第96図 414	1	D10EV	第9遺構面 288-OO	土師器	壺	口径(20.5cm) 残存高 3.7cm	2mm以下の白色 粒含む	良	外 黄緑(5YR6/4) 断 灰白(N7/0) 内 灰白(10YR8/2) 灰白(10YR8/2)	
第96図 415	1	D10RY	第9遺構面 284-OO	土師器	壺	口径(19.3cm) 残存高 4.2cm	1mm以下の砂粒 含む	良 断 内	こぶい・黄緑(10YR6/3) 黄灰(7.5YR6/3) こぶい・緑(7.5YR7/3)	
第96図 416	1	D10EV	第9遺構面 294-OO	弥生 土器	壺	口径(25.8cm) 残存高 6.7cm	3mm大の白色小 石、1-2mm大 の白・灰色小石 含む	良 断 内	灰黄緑(10YR5/2) 黒(5Y2/1) 灰黄緑(10YR5/2) 内 灰黄緑(10YR5/2)	
第97図 417	3	D10WH	第9遺構面 ベース層	弥生 土器	壺	口径(13.4cm) 残存高 9.1cm	4mm以下の白色 粒多量に含む	良 断 内	こぶい・黄緑(10YR7/2) 黄灰(2.5Y5/1) 黄灰(2.5Y5/1)	

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.19

№	区	用 区	層位・遺構	種 類	器 種	出 土 位 置	胎 土	焼 成	色 調	備 考
第97図 418	3	DHSA	第9遺構面 ベース層	丹土 土器	壺	残存高 4.3m 底 径(8.0m)	1~2m以下の 白色小石多量に 含む	良	外 暗灰(N3/0) 灰黄褐(10YR6/2) 断 褐灰(10YR6/1) 断 灰黄褐(10YR6/2) 断 褐灰(10YR6/1) 内 褐灰(10YR6/1)	底層の み
第97図 419	3	DHWH	第9遺構面 ベース層	丹土 土器	壺	口 径(14.0m) 底 径(9.0m)	3.5m以下の白 色粒多量に含む	良	外 灰白(10YR7/1) 断 灰白(10YR7/1) 内 灰白(10YR7/1)	
第97図 420	3	DHPA	第9遺構面 ベース層	縄文 土器	深鉢	残存高 6.4m 底 径 5.6m	2~4m大の灰・ 白色小石多量に 含む	良	外 黒褐(2.5Y3/1) 断 灰黄(2.5Y7/2) 断 灰黄(2.5Y7/2) 内 黒褐(2.5Y3/1) 断 灰黄(2.5Y7/2)	底層の み
第97図 421	3	DHTE	第9遺構面 ベース層	丹土 土器	壺	残存高 3.0m	1m大の白色砂 粒及び3m大の 白色小石含む	良	外 赤橙(10R6/6) 断 灰黄褐(10YR6/2) 断 赤橙(2.5YR5/6) 断 灰黄褐(10YR6/2) 内 に5Y-黄褐(10YR7/2)	
第97図 422	3	DHWI	第9遺構面 ベース層	縄文 土器	深鉢	残存高 6.7m	2m大の白色砂 粒、3m大の白 色小石含む	良	外 暗灰(N3/0) に5Y-黄褐(10YR5/3) 断 灰黄褐(10YR6/2) 断 灰黄褐(10YR6/2) 内 灰黄(2.5Y3/1)	
第97図 423	3	DHSR	第9遺構面 ベース層	縄文 土器	深鉢	残存高 7.5m	1~3m大の灰 白、3m大の白 色小石多量に 含む	良	外 暗灰(N3/0) 黄灰(2.5Y4/1) 断 暗灰(N3/0) 断 黄灰(2.5Y4/1) 内 黄灰(2.5Y4/1)	
第100図 436	3	DHNB	第11遺構面 ベース層	縄文 土器	浅鉢	口 径 19.0m 器 高 8.1m	1m程度の砂粒 含む	良	外 灰白(5Y7/2) 断 灰(5Y6/1) 内 灰黄(2.5Y7/2)	
第100図 437	3	DHND	縄文土層	縄文 土器	深鉢	口 径(24.5m) 残存高 16.6m	3~7m程度の 小石を数個含む	良	外 黒褐(10YR3/2) 断 灰黄褐(10YR4/2) 内 黒褐(10YR3/2)	
第100図 438	5-5	DH8Q	黄城土層	縄文 土器	深鉢	残存高 4.0m 底 径 11.0m	1m以下の白・ 灰色砂粒及び2 m大の白色小石 含む	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰(5Y2/1) 内 灰黄(2.5Y6/2)	
第100図 439	2	DH8M	第12遺構面 319-CR	縄文 土器	注口土器		1~3m大の白・ 黒色小石含む	良	外 黄灰(2.5Y4/1) 断 灰(5Y2/1) 断 黄灰(2.5Y4/1) 内 黄灰(2.5Y4/1)	
第100図 440	2	DH9Q	第12遺構面 310-CR	縄文 土器	ミヅフア 注口土器		1~2m大の白 色砂粒含む	良	外 暗灰(N3/0) 断 灰(N3/0) 断 灰白(5Y8/2) 内 暗灰(N3/0)	
第100図 441	2	DH9R	第12遺構面 310-CR	縄文 土器	浅鉢	口 径(16.0m) 残存高 10.3m	1~2m大の白 色砂粒及び3~ 7m大の白色小 石多量に含む	良	外 黒(2.5Y2/1) 断 灰黄(3.5Y4/2) 断 暗灰黄(2.5Y4/2) 内 暗灰黄(2.5Y4/2)	
488	1	DH8L	第6遺構面 118-CR	土層跡	壺?		黄 色	良	外 明暗灰(7.5YR7/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) 内 に5Y-暗(7.5YR6/4)	遺棄土 器

第11表 土器観察表

() は復元値を示す

No.20

No.	区	地区	層位・遺構	種類	器種	法量 g	胎土	焼成	色調	備考
489	3	D10NE	第6遺構面 ベース層	土師器	杯		1mm以下の白色 砂粒を含む	良	外 灰オリーブ(5Y6/2) 断 灰オリーブ(5Y6/2) 内 灰オリーブ(5Y6/2)	土師土器(中)
490	3	D10VB	第6遺構面 ベース層	土師器	杯		緻密	良	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 断 灰白(2.5Y7/1) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	土師土器
491	3	D09PV	第7遺構面 ベース層	土師器	杯		緻密	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 暗灰黄(2.5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	土師土器
492	3	D09RW	第7遺構面 ベース層	土師器	杯		緻密	良	外 にぶい黄(2.5Y6/3) 断 灰オリーブ(5Y6/2) 内 灰黄(2.5Y6/2)	土師土器(中)
493	3	D09QV	不明	土師器	杯		緻密	良	外 灰黄(2.5Y6/2) 断 灰黄(2.5Y6/2) 内 にぶい黄(2.5Y6/3)	土師土器

第12表 木製品観察表

()は残長を示す

No.1

番号	区	地区	層位・遺層	種 類	法 量 α	副 種	特 徴	備 考
第12区 4	4	D08V0	田林土層	動物産物	直径 6.5 厚さ 0.4			
第13区 5	3	D10UH	第1遺構面 ベース層	杖	長 (30.0) 直径 4.5 厚さ 4.2		上端に突起。	
第13区 6	3	D10W0	第1遺構面 ベース層	片状木製品	長 (39.1) 直径 3.6		丸く磨かれている。	
第13区 7	3	D10V0	第1遺構面 ベース層	杖	長 29.3 幅 2.6 厚さ 2.8		角材で、上端に2.4cm×1.0cmの 切れ込みが入り、凹状をなす。	
第13区 23	3	D10U0	第2遺構面 15-CZ	杖	長 (58.0) 幅 6.3 厚さ 5.4		溝状の凹みが一面に通り、そ れを切るように斜孔が開く。通 う側面にも貫通しない穴がある。	
第15区 24	3	D09W0	第2遺構面 ベース層	ツチノコ(木鏝)	長 13.3 直径 3.5		数針	
第16区 25	4	D09Q0	第2遺構面 ベース層	用途不明品	長 (10.3) 幅 3.1 厚さ 3.9		丸味を付けた台形状。	
第16区 26	4	D09Q0	第2遺構面 ベース層	杖	長 (27.2) 直径 3.8			
第16区 27	4	D09ON	第2遺構面 ベース層	用途不明品	長 31.5 幅 6.5 厚さ 2.7			
第25区 63	4	D09UQ	第3遺構面 直上砂層	棒状木製品	長 (24.6) 柄長(14.7) 柄径2.1-2.5	カキノキ	扁平な方形の断面部分に縦溝の ような線がつく。柄の部分はさ らに細く、方形部下方中央にV 字の切れ込みが入る。	方形部長 19.1 * 幅 7.9 * 厚さ 2.0
第25区 64	7	D09LL	第3遺構面 ベース層	棒状木製品	長 (24.6) 柄長(14.4) 柄径2.0-2.2	ステイ	63に類似するが、背面が内曲す る点異なる。	方形部長 10.4 * 幅 8.0 * 厚さ 2.7
第25区 65	3	D10XA	第3遺構面 ベース層	刀子柄	長 9.3 幅 2.8 厚さ 0.9		内面は金属部をはきみ込むよう にくり抜かれ、中央に目釘孔を もつ。	
第25区 66	3	D10E0	第3遺構面 ベース層	動物産物	長 (32.2) 幅 (8.4) 厚さ 1.2		約1/4残	
第30区 82	3	D10E0	第4遺構面 ベース層	板	長 (42.5) 幅 5.9 厚さ 1.2		3カ所に小孔をもつ。	
第30区 83	4	D09Q0	第4遺構面 ベース層	動物産物	直径 15.1 幅 (8.3) 厚さ 0.6-0.65		3カ所に木刺のあと。何枚かの 板をつなぎあわせてのものか。	

第12表 木製品観察表

() は長さを示す

No.2

番号	区	地区	部位・用途	種類	数量	樹種	特徴	備考
第3028 84	7	D09LM	第4遺構面 ベース層	木製?	長 (12.7) 幅 2.6 厚さ 0.5		上端に斜めに切り落とされ、さらに切り込みが入る。	
第3028 85	3	D10FE	第4遺構面 ベース層	管状木製品	長 (11.3) 幅 0.7 厚さ 0.7		細い管状。	
第3728 127	1	D10GS	第5遺構面 ベース層	駒	長 (89.7) 方長 19.7 側長 (50.0)	アカギシ	一本作りの駒で、出土時には三つの種子がついていた。 写真部に線刻をもち、断面T字 形を呈する。 写本にははじ字形状を後述して いたと思われる。	128・129や須恵 墓が共存。 方部幅 15.2 方部厚 1.9 側部底径 3.4
第3728 128	1	D10GS	第5遺構面 ベース層	えぶり	長 (33.4) 幅 9.8 厚さ 2.0		線刻で、磨滅するが、流状の使 用面が残る。	
第3728 129	1	D10GS	第5遺構面 ベース層	板材	長 (24.1) 幅 11.1 厚さ 1.7		中央上よりに方形孔。	
第3728 130	3	D10XC	第5遺構面 ベース層	用途不明品	長 (19.7) 長方部長(16.8) * 幅 4.3 * 厚 1.3		四角い軸部をもつ。	軸部長 2.9 * 幅 1.2 * 厚さ 1.5
第3728 131	3	D09XT 東北アe2	第5遺構面 直上砂層以 上	用途不明品	長 (26.2) 幅 (2.35) 厚さ 1.4		両端し、一端はつまみを、もう 一端は溝状の突起をもつ。	
第3728 132	7	D09NM	第5・6遺 構面ベース 層	用途不明品	長 (4.4) 幅 2.1 厚さ 0.5		ゾーナツを分割したような形の 小片。	
第3728 133	1	D10EX	第5遺構面 ベース層	筒丸木製	長 (22.9) 幅 2.6 厚さ 1.0		人指状の切れ込みをもつ。	
第3728 134	7	D09MO	第5遺構面 ベース層	板材	長 (15.6) 幅 2.6 厚さ 0.75		左右でわずかに段がつく板材。	
第3728 135	1	D10EX	第5遺構面 ベース層	念物産物又は田 下駄	長 (15.9) 幅 (6.9) 厚さ 0.7		上端は線刻で仕上げられている。	
第4628 227	3	D10XC	第6遺構面 枕列	板材	長 (26.6) 幅 10.8 厚さ 3.0	ヒノキ	幅用材か、細い軸部がつく。	軸部長 (5.6) * 幅 2.6 * 厚さ 2.6
第4628 228	3	D10RE	第6遺構面 枕列	杖	長 (44.6) 直径 2.9		先端を斜めに落とす。	
第4628 229	3	D10RC	第6遺構面 枕列	杖	長 (35.6) 長径 3.9 短径 3.6			
第4628 230	3	D10ED	第6遺構面 枕列	杖	長 (36.5) 幅 4.0×3.6		横方向の削り痕が多数入る。	

第12表 木製品観察表

()は残長を示す

No.3

番号	区	地区	部位・選別	種類	法量 α	樹種	特徴	備考
第46区 231	3	D10SC	第6選別面 枕列	板材	長 (37.05) 幅 5.1 厚さ 1.8		薄い板材。	233と同一個体
第46区 232	3	D10RC	第6選別面 枕列	枕	長 (12.1) 直径 4.1			
第46区 233	3	D10RC	第6選別面 枕列	板材	長 (56.0) 幅 5.4 厚さ 1.4			
第46区 234	3	D10RD	第6選別面 枕列	枕	長 (28.4) 直径 4.7		先端を鋭く、五角形に尖らせる。	
第46区 235	3	D10RC	第6選別面 枕列	枕	長 (23.2) 直径 4.0 短径 3.1			
第46区 236	3	D10RD	第6選別面 枕列	枕	長 (17.1) 上 直径 4.7 短径 4.5		枕先は五面を削る。	長 (14.2) 幅 5.0 厚さ 4.8 断面幅 2.1 断面厚 2.6
第46区 237	3	D10RD	第6選別面 枕列	枕	長 (12.5) 直径 3.9			
第47区 238	3	D10RE	第6選別面 枕列	板材	長 (29.5) 幅 9.0 厚さ 5.0		中央に2.0 α ×1.6 α の楕円形の 穴を約10 α の深さでくり抜く。 転用材か。	
第47区 239	3	D10RE	第6選別面 枕列	枕	長 (46.7) 直径 3.7			
第47区 240	3	D10RE	第6選別面 枕列	枕	長 (31.7) 直径 4.5~4.7			
第47区 241	3	D10RF	第6選別面 枕列	枕	長 (36.2) 直径 3.6			
第47区 242	3	D10RF	第6選別面 枕列	枕	長 (60.2) 直径 4.8			
第47区 243	3	D10RC	第6選別面 枕列	枕	長 (60.2) 直径 5.0			
第47区 244	3	D10RF	第6選別面 枕列	枕	長 (19.8) 直径 4.0			
第47区 245	3	D10RF	第6選別面 枕列	用途不明品	長 (30.5) 幅 11.1 厚さ 5.8		農具の実製品か。断面山形をなす。	

第12表 木製品観察表

()は殊長を示す

No.4

番号	区	地区	層位・遺構	種類	数量	樹種	特徴	備考
第47区 246	3	D10RF	第6遺構面 枕列	板	長 (71.9) 幅 7.5 厚さ 2.9		薄い板材。	
第48区 247	3	D10RF	第6遺構面 枕列	枕	長 (41.3) 幅 3.25 厚さ 4.1			
第48区 248	3	D10RG	第6遺構面 枕列	用途不明品	長 15.3 幅 2.2 厚さ 1.4		溝状の凹みをもつ板材。	
第48区 249	3	D10RG	第6遺構面 枕列	板	長 (14.25) 幅 3.7 厚さ 0.85		薄い板小片。	
第48区 250	3	D10SG	第6遺構面 枕列	板	長 (10.1) 幅 4.1 厚さ 0.9			
第48区 251	3	D10SG	第6遺構面 枕列	板材	長 (10.8) 幅 12.1 厚さ 4.4		突起をもつ。	
第48区 252	3	D10RI	第6遺構面 枕列	枕	長 (22.5) 縦径 2.6 横径 3.4			
第48区 253	3	D10SC	第6遺構面 枕列	板	長 (85.7) 幅 3.2 厚さ 1.6		細長い板材。	
第48区 254	3	D10RI	第6遺構面 枕列	角材	長 (26.6) 幅 4.6 厚さ 4.6		断面四角状。	
第48区 255	3	D10RH	第6遺構面 枕列	枕	長 (65.8) 径 (3.9)			
第48区 256	3	D10RH	第6遺構面 枕列	枕	長 (53.2) 径 5.3			
第49区 257	2	D10UR	第6遺構面 118-OR	有眼縁	長 65.8 長径 2.2 短径 1.8	スギ	眼をつくりだし、先端は斜めに 切断される。	
第49区 258	5-6	D10OR	第6遺構面 118-OR	田下駄足板	長 30.2 幅 (5.5) 最大幅11-18 厚さ 1.0		約1/2幅で割れていると推定し、 復元すると、11-12cm幅で上下 端にくびれをもち、その中央に 孔をもつ形となる。	
第49区 259	2	D10VQ	第6遺構面 118-OR	下駄	長 (16.1) 幅 11.5 厚さ 1.6		歯を作り出す溝を下駄。	
第49区 260	3	D10MI	第6遺構面 118-OR	穿孔木箸	長 (18.55) 幅 3.5 厚さ 0.85			

第12表 木製品観察表

()は残長を示す

No.5

番号	区	地区	部位・選別	種 類	寸 法 cm	密 度	特 徴	備 考
第49区 261	2	D10US	第6選別面 118-OR	筒札木脚	長 (12.4) 幅 1.7 厚さ 0.6			
第49区 262	1	D10CN	第9選別面 118-OR	用途不明品	長 (10.3) 幅 1.6 厚さ 0.4		ごく小型でつまみをもつ。	
第49区 263	3	D10JP	第6選別面 118-OR	杖	長 (57.0) 幅 4.7 厚さ 2.6			
第49区 264	5-6	D10PP	第9選別面 118-OR	杖	長 (40.1) 幅 4.0 厚さ 3.7			
第49区 265	5-6	D10QR	第6選別面 118-OR	杖	長 (79.8) 幅 7.8 厚さ 5.5		中央に4.7cm×6.7cmのほぞ孔をもつ。上端は凸状に整える。	
第49区 266	5-6	D10PP	第9選別面 118-OR	棒状木製品	長 50.5 断面幅 5.5 断面厚 3.8 先端幅 2.6 先端厚 1.8		刀剣のような形で、つかにあたる断面が、その先の細い部分に分かれる。	
第50区 267	2	D10RS	第9選別面 118-OR	樽	長 104.8 幅 (15.5) 厚さ 1.9	ヒノキ	約1/2残	
第50区 268	2	D10RS	第6選別面 118-OR	樽	長 44.8 幅 (9.6) 厚さ 2.5 高さ 10.2	ヒノキ	内面は逆舟形状。外面は工具痕がきれいに残る。穿孔とその痕のくびれは彫れた溝をつなぐ補綴のあととみる。	
第50区 269	2	D10RS	第6選別面 118-OR	杖	長 (79.1) 幅 (6.9) 厚さ 1.35			
第51区 270 A	3	D08SY	第6選別面 ベース層	田下駄 (左足)	長 36.7 幅 12.9 厚 0.9	ネズコ	舟形で3つの鼻縁孔と、上下左右各1穴所。計4穴所の小孔をもつ。裏面には帯状の突起がはっきり見えるので輪カンジキ形の田下駄の足板である。	ほぼ残
第51区 270 B	3	D08SY	第6選別面 ベース層	田下駄 (右足)	長 36.5 幅 (6.6) 厚 1.2			左1/2残
第51区 271	3	D10SA	第6選別面 ベース層	紡錘具	長 (36.8) 径 1.9-2.0	ネズコ	1厘から切れ込みが入る。	
第51区 272	3	D10SB	第6選別面 ベース層	用途不明品	長 13.2 幅 1.0 厚さ 1.0		先端を細くした棒状の小片。	
第51区 273	3	D10SA	第6選別面 ベース層	用途不明品	長 (7.1) 幅 2.9 厚さ 0.4		小孔を中央部にもちつ。	
第52区 274	5-5	D15AQ	第6選別面 118-OR	木脚	長 (11.0) 幅 1.6 厚さ 0.25	スギ	上方は欠損。 「門」印 又「西丹」	

第12表 木製品観察表

()は成長を示す

No.6

番号	区	地区	層位・遺保	種類	質量 cm	特徴	特徴	備考
第592区 275	3	D10VF	第6遺保面 ベース層	木割	長 (11.5) 幅 0.8 厚さ 0.45		上方は欠損。 「□」状	
第598区 297	3	D10QK 聖壇	第7遺保面 ベース層	西気柱板	長 (53.6) 幅 8.6 厚さ 1.5	ヤマザクラ	内外側面とも黒漆塗り。1面は方形区画の紋様が紋様で、裏面が収縮と浮腫で表現される。もう1面は、まん中辺で区切りを4つ西気柱が紋様で表現される。どちらも紋様内は赤色顔料を施す。まん中の穿孔は2次的なもの。	
第599区 298	3	D10NB	第7遺保面 ベース層	童子形木製品	長 46.0 幅 (14.7) 高さ 11.2	コウヤマキ	1本の木をくり抜いて作られている。平面形は、ナスビ形木製品そのままの輪と命部をもつが、表裏板、使用痕はみられない。	胴部幅 4.5 胴部高さ 5.1 輪部長 17.5 万部長 28.5
第599区 299	3	D10QB	第7遺保面 ベース層	紡錘具	長 (39.2) 幅 3.7 厚さ 1.2		輪部をもつ。	
第600区 300	3	D10LC	第7遺保面 ベース層	腰掛	長 39.4 幅 10.5 高さ 11.9	コウヤマキ	くり抜き式。 一側火を受けている。	
第600区 301	3	D06JY	第7遺保面 ベース層	山下駄籠持	長 (49.4) 幅 3.4 厚さ 5.2		1.5cm四方の方形孔を6個有する。端から1つ目と2つ目の間に手持繩をかけた圧痕が残る。	
第600区 302	5-2	D14BY	第7遺保面 ベース層	山下駄籠持	長 (9.8) 幅 2.8 厚さ 4.4		端から1つ目の孔の部分のみ残る。	
第600区 303	1	D10CR	第7遺保面 ベース層	輪割板?	長 (34.4) 幅 (8.5) 厚さ 0.8		3か所に方形孔をもつ。	
第600区 304	3	D10MD	第7遺保面 ベース層	杵?	長 (30.4) 幅 8.7 厚さ 5.3		一端は丸味を持たせ、一端は細くなる。	
第600区 305	3	D10QB	第7遺保面 ベース層	山下駄籠木	長 30.0 幅 4.7 厚さ 1.5		段がつくものとつかないものの違いがあるが、両端につまみをもつ。中心には逆舟形状のくぼみをもつ。紡錘具の可能性もある。	299と共存。
第600区 306	3	D10MD	第7遺保面 ベース層	用途不明品	長 (22.7) 幅 3.1 厚さ 1.1		299と似るが小型。	
第600区 307	3	D06LX	第7遺保面 ベース層	有眼棒	長 (13.9) 径 1.45		八角形に眼をつくる。	
第600区 308	3	D10MD	第7遺保面 ベース層	板	長 (13.95) 幅 1.8 厚さ 1.0		左右でわずかに段がつく。	
第600区 309 A	3	D06FU	第8遺保面 ベース層	輪割板	長 29.7 幅 4.2 厚さ 1.3	スギ	Bのはぞ孔にAのつまみの部分を入れると30.5cm×25.5cmの容量の箱となる。 小孔は竹綿などを通すためのものか。	遺製部等遺跡出土品と類似。
第600区 309 B	3	D06FU D06JY	第8遺保面 ベース層 第7遺保面 ベース層	輪割板	長 37.4 幅 4.5 厚さ 1.3	スギ		

第12表 木製品観察表

()は既長を示す

No. 7

番号	区	地区	部位・用途	種類	寸法 cm	樹種	特徴	備考
第61区 310	3	D10QD	第7選抜面 ベース層	板	長 (96.2) 幅 6.9 厚さ 4.8			
第61区 311	3	D10MD	第7選抜面 ベース層	板	長 (93.4) 幅 4.6 厚さ 5.2			
第61区 312	3	D10MD	第7選抜面 ベース層	板	長 (76.4) 幅 (6.0) 厚さ (1.6)			先端は段をつけてややせばまる。
第61区 313	3	D10MC	第7選抜面 ベース層	板	長 (38.4) 幅 9.0 厚さ 2.2			長辺の一端に2か所、孔のような欠けがある。
第61区 314	3	D10PJ	第7選抜面 ベース層	板	長 (50.8) 幅 13.2 厚さ 2.5	ヒノキ	縦目材。	
第61区 315	3	D10LJ	第7選抜面 ベース層	板	長 (8.0) 幅 4.7 厚さ 3.4			
第61区 316	3	D10TE	第7選抜面 ベース層	板	長 (9.5) 幅 4.6 厚さ 0.95			
第61区 317	3	D10TE	第7選抜面 ベース層	板	長 27.25 幅 (3.7) 厚さ 1.2			上方はわずかに幅広になる。
第61区 318	3	D10MC	第7選抜面 ベース層	板	長 (20.1) 幅 (4.3) 厚さ 0.8			左辺2か所に孔。表面には汚物痕がみられる。
第61区 319	3	D10MD	第7選抜面 ベース層	板	長 (16.55) 幅 5.15 厚さ 2.8			
第62区 320	3	D08JX	第7選抜面 ベース層	枕	長 (45.5) 幅 5.0 厚さ 2.0			
第62区 321	3	D08JX	第7選抜面 ベース層	枕	長 (41.0) 幅 3.3 厚さ 3.2			磨耗している。
第62区 322	3	D08JX	第7選抜面 ベース層	枕	長 (49.5) 幅 8.3 厚さ 3.2			くり抜き穴を有する。
第62区 323	3	D08JX	第7選抜面 ベース層	枕	長 (20.3) 幅 3.7 厚さ 2.9			
第62区 324	3	D10MD	第7選抜面 ベース層	枕	長 (43.3) 幅 7.3 厚さ 4.45			上下端中央に楕円形の穿孔がある。

第12表 木製品観察表

() は残長を示す

No. 8

番号	区	地区	部位・遺構	種類	重量 g	別種	特徴	備考
第62区 325	3	D10MD	第7遺構面 ベース層	杖	長 (35.2) 幅 9.9 厚さ 6.2			
第69区 358	3	D08JY	第8遺構面 126-OS	皿下敷籠持	長 (72.8) 幅 3.0 厚さ 3.9	アスナロ	1.6cm×1.4cmの方形穴を12箇所 つ。そのうち端上左右の端から 4つ目のみが貫通する。 手神縄の痕跡が残る。	友井東遺跡出土品 に類似。
第69区 359	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	杖	長 (60.5) 幅 4.3 厚さ 1.8		断面長円形で、側面に2.6cm× 1.15cmのほぞ孔が開く。	300
第69区 360	3	D10LD D10RC	第8遺構面 126-OS 第7遺構面 ベース層	杖	長 (89.6) 幅 5.6 厚さ 2.9	アスナロ	断面長円形で側面に3.1cm×0.9 cmのほぞ孔が開く。先に行くほど 太くなる。縦方向にきれいに 削られて仕上げられている。	
第69区 361	3	D10EE	第8遺構面 126-OS	杖	長 (58.2) 幅 6.0 厚さ 4.4			
第69区 362	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	杖	長 (48.35) 幅 2.3 厚さ 1.9		先に行くほど細くなる。	
第70区 363	3	D10CC	第8遺構面 126-OS	板状木製品	長 (33.8) 幅 5.9 厚さ 3.8		両端した部分をもつ。	
第70区 364	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	板材	長 (35.9) 幅 (9.0) 厚さ 1.85			
第70区 365	3	D10MC	第8遺構面 126-OS	網俵	長 22.3 網部長12.5 等部長 9.8	サカキ	可能は使用による網材が著しい。	網部縦径 2.8 網部横径 2.2 甲部縦径 4.8 甲部横径 3.8
第70区 366	3	D10JC	第8遺構面 126-OS	泥除け	長 (31.6) 最大長39.2 幅 (16.0) 厚さ 9.5	アカガシ	細分しているが、中央に縦に長 い円孔をもつ。 横断に鋭角する両端。	
第70区 367	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	まな板	長 40.2 幅 17.5 厚さ 1.9	ヒノキ	板用材が一端は切断されている のと、溝状の跡みがある。表面 ともに方物痕。	
第71区 368	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	杖	長 (67.4) 直径 6.2		側皮付の丸上。	
第71区 369	3	D10MC	第8遺構面 126-OS	杖	長 (73.1) 幅 7.9 厚さ 5.2			
第71区 370	3	D10LD	第8遺構面 126-OS	杖	長 70.3 幅 2.0 厚さ 2.1			